

「心の教育」に関する調査 報告書

平成 23 年 3 月

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター

兵庫県における「心の教育」に関する調査にあたって

心の教育総合センター所長 富永良喜

1995年の阪神・淡路大震災と1997年の神戸市須磨区における連続児童殺傷事件は、兵庫県民に打撃と衝撃を与えた。そして、この衝撃を乗り越えるため、様々な教育施策を展開してきた。心の教育総合センターの設置もその一つであった。

心の教育総合センターでは、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員と「心の授業」の指導案(1999.3~2005.3)の作成を行い、発信してきた。その後、「心の授業」は、『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』と実践事例集(2006.3~2010.3)の作成、発行につながり今日に至った。

また、兵庫県立教育研修所の研修講座でも、ストレスマネジメントや命の教育について取り上げてきた。心の教育総合センターにも、それらの企画や活動をとおして、心の授業や命の教育の取組に関する効果とその運用の課題について、教育現場から様々な声が届けられていた。そして、全県下で、どのような取組がどれくらいの頻度で行われており、教育現場は心の教育に関して今後どのような取組を切望しているかについて情報収集する必要があると、心の教育総合センターのスタッフ会議で折々に話題になっていった。

そこで、この度、全県下の公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校(神戸市立学校を除く)を対象として、心の教育の実態と今後取り組みたい内容について調査することとなった。調査項目の設定にあたって、「命の大切さ」を実感させる5つの教育プログラムを参考にする、具体的な活動のイメージがしやすい表記を心がける、不登校・暴力・いじめとの関連を検討する、今後の取り組みたい課題がわかる、の4点を柱とした。

調査用紙の内容については、心の教育総合センターのスタッフ会議で何度も検討した後、兵庫県教育委員会事務局高校教育課、義務教育課、特別支援教育課や、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員の方々に検討していただき、加筆修正し作成した。また、本調査研究に係る経費は、兵庫教育大学の学内科研により支弁された。関係各位に深く感謝したい。

本報告書の完成間近に、東北地方太平洋沖地震が発生した。未曾有の大規模災害は、16年2ヶ月前の阪神・淡路大震災を想起させた。災害という困難をくぐり抜けてきた兵庫県は、心のケアや心の教育の実践を、被災した人々に届けることが責務である。本報告書は、被災地で生きる子どもたちや全国の子どもたちの心の健康や命の教育に資することを確信していることを申し添え、はじめの言葉としたい。

目 次

1	学校における心の教育の充実について	
(1)	児童生徒をめぐる状況	1
(2)	心の教育総合センターにおける心の教育に関する調査・研究	2
2	「心の教育」に関する調査方法について	
(1)	目的	4
(2)	対象	4
(3)	内容	4
(4)	調査方法	4
(5)	分析方法	4
3	「心の教育」に関する調査結果について	
(1)	学校・学年の割合	9
(2)	回答者の校務分掌	9
(3)	学校の全児童生徒数	10
(4)	学校の地域	10
(5)	学校の不登校児童生徒数	11
(6)	学校の暴力行為の件数	12
(7)	学校のいじめの認知件数	13
(8)	高等学校（高等部）における中途退学者の割合	15
(9)	各学校・学年と「心の教育」の各活動との関連	15
(10)	不登校・問題行動等と「心の教育」の各活動との関連	28
(11)	「心の教育」として特に効果的であると考ええる内容	35
(12)	「心の教育」として今後行いたいと考える内容	38
(13)	「心の教育」に関する使用出版物等	41
4	「心の教育」に関する調査の考察 調査結果から見えてくるもの	
(1)	各発達段階と「心の教育」の取組内容との関連について	42
(2)	不登校、暴力行為、いじめの実態と「心の教育」の取組内容との関連について	46
(3)	今後望まれている「心の教育」の内容について	48
	引用文献	50
	参考資料	51

1 学校における心の教育の充実について

(1) 児童生徒をめぐる状況

ア 社会全体の変化

文部科学省の「教育相談等に関する調査研究協力者会議」が2007年7月に報告した『児童生徒の教育相談の充実について』では、「物質的な豊かさにあふれ、高度情報化、都市化、少子高齢化、核家族化や夫婦共働きの進行などの現代社会の大きな変容の中で、家庭の教育力や地域社会の機能の低下が著しい」と指摘されている¹⁾。また、文部科学省が2010年3月に刊行した『生徒指導提要』においても、「都市化や少子化、情報化などが進展する中で、社会全体で様々な課題が生じており」と社会の変化について触れられており、さらに、高度情報化や都市化の進展、少子化の進行など社会が変化する中で、これまで地域社会が担ってきた教育的機能にも変化が見られるようになったことを挙げている²⁾。

また、情報化も急速に進展し、携帯電話の普及率は一人一台に迫る勢いである。ブログやツイッターなどの新しいウェブサイトの利用方法が普及し、これまで、パソコンでの操作が中心であったものの多くが携帯電話から操作できるようになった。兵庫県教育委員会が2007年に公表した「インターネット及び携帯電話の利用状況等に関するアンケート調査」結果では、「自分専用の携帯電話がある」と回答した児童生徒の割合は小学生で21%、中学生で40%、高校生では95%となっている³⁾。

一方、厚生労働省が2010年に公表した「児童虐待相談対応件数等及び児童虐待要保護事例の検証結果」では、全国の児童相談所における児童虐待に関する相談件数が44,210件とこれまでで最多の件数を記録した⁴⁾。前述の『生徒指導提要』においても児童虐待の定義や学校虐待対応について示されている⁵⁾。

イ 児童生徒の問題行動等の状況

以上のような大きな社会の変化の中、前述の『児童生徒の教育相談の充実について』では、「家庭の教育力や地域の機能が低下するとともに、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向も見られる」と示されている⁶⁾。文部科学省が2010年に公表した「平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」⁷⁾では、小学校、中学校、高等学校における暴力行為の発生件数は約6万1千件と、前年度より約1千件増加し、小学校、中学校においては過去最高の件数となっている。いじめの認知件数については、前年度より約1万2千件減少しているものの、依然として7万件以上の件数となっている。また、小学校、中学校の不登校児童生徒数は、前年度に比べ3.4%減少しているが、依然として12万人を超えており、各都道府県においてもその対応と予防的な取組がなされているところである。

兵庫県においては、不登校児童生徒数といじめの認知件数については全国平均を下回っているが、暴力行為の発生件数は、児童生徒1千人あたりの発生件数が6.3件と全国平均の4.5件を上回っている。

このような状況の中、兵庫県の『平成22年度 指導の重点』において、「自然体験や、ボランティア等の社会体験など、多様な体験活動を通して、自尊感情をはぐくみ、個性の伸長を図る中で、命の大切さや思いやりの心、規範意識の涵養など、『心の教育』の充実を図る」と示されている⁸⁾。

(2) 心の教育総合センターにおける心の教育に関する調査・研究

ア 調査・研究の内容

当センターは、児童生徒の心の教育に関する今日的な課題に対応して、大学等との連携のもと、調査・研究、研修、啓発を行うとともに、児童生徒や保護者等への相談活動の充実を図ることを目的とし、1998年4月に兵庫県立教育研修所内に設置された。

心の教育に関する調査・研究の内容については、以下の3点に大別できる。

(ア) 「心の教育授業案」の開発・実践研究

児童生徒の心の教育に関する授業案を先導的に開発・研究するとともに、その授業実践の教育的意義について実証的に研究することを目的に、「心の教育開発研究委員会」が当所に設置された。小学校、中学校、高等学校の委員が、各校種に応じた「心の教育授業案」を作成し、実践を積み重ね、その研究成果を『心の教育授業実践研究 第1号～第7号』（1999年3月～2005年3月）⁹⁾にまとめている。具体的な内容の柱は、次の3点である。

第一は、「ストレスマネジメント教育」である。グループワークの導入として用いられる「10秒呼吸法」や、ペアで行える「肩のリラクゼーション」などの体験をとおして、ストレスとの上手な付き合い方を身につけさせるための取組を紹介している。

第二は、「人間関係に関する体験」である。自分の描いた絵を用いて行う自己紹介や保護者から自分たちに宛てられたメッセージを読む体験、適切な自己表現について考えるアサーション・トレーニングなどとおして、よりよい人間関係を築いていく上で必要な対処法を身につけさせるための取組を紹介している。

第三は、「自己発見・自己開発」である。エゴグラムなど自分自身の性格の特徴がわかる質問紙を用いたプログラムや、自分がこれまでにお世話になった人を思い出すなど、自分の心の内を観察する体験をとおして、自己理解を深めていくために効果的な取組を紹介している。

(イ) 今日的な課題に対応した実践研究

児童生徒を取り巻く社会環境が大きく変化する中、心の教育において特に学校で問題となっている内容について重点的に研究するため、各委員会が組織され、各教員委員が学校での実践した成果を報告書にまとめている。

a 『学校における心の危機対応実践ハンドブック』（2002年3月）¹⁰⁾

児童生徒の死亡や、自殺、児童生徒に関わる殺傷事件等、学校の危機における児童生徒の心のケアについて、具体的な対応方法等をまとめている。

学校の危機対応事例実践マニュアルを、不登校や虐待などに関する個人レベルの対応、いじめや学級崩壊などに関する学級・学年・学校レベルの対応、殺傷事件や自然災害などに関する地域社会・全国レベルの対応の3タイプに分け、それぞれの実態や対応上の留意点などを提示している。

b 『学校のストレスマネジメント研究』（2004年3月）¹¹⁾

第1章の基礎編では、ストレスに関する基礎的な内容の確認、ストレスマネジメント教育の定義や4段階で展開される指導内容、具体的な技法などについてまとめている。

第2章の実践編では、小学校、中学校、高等学校における各発達段階に応じた実践例を挙げ、総合的な学習の時間における取組や部活動での取組、保健室を利用した児童生徒への対応など、ストレスマネジメントの技法を活用した様々な取組を紹介している。

c 『学校・家庭・地域における暴力防止プログラム研究』(2006年3月)¹²⁾

学校や家庭、地域における児童生徒の暴力、いじめ、虐待、施設等の器物損壊などを防止するためのプログラムをまとめている。

小学校では、児童が「怒り」など自分の感情を理解し、相手に伝えたいことを適切な表現で伝える力の向上を図るアンガーマネジメント・プログラムを暴力防止に活かした取組などがある。また中学校では、入学後のオリエンテーションの中で、暴力行為が生じる仕組みを理解させたり、適切な自己表現方法を体験させたりする取組がある。さらに高等学校では、仲間づくりや社会的スキルの育成を支援するためのピア・サポートプログラムを、ホームルーム活動で行うことで、暴力防止を図る取組などがある。

(ウ) 「命の大切さ」を実感させる教育

児童生徒に、自他の命の大切さを実感させるため、小学校、中学校、高等学校の各発達段階に応じた、「命の大切さを実感させる教育プログラム」を研究・開発することを目的に、委員会が組織され、その研究成果をまとめている。

a 『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』(2006年3月)¹³⁾

子どもたちを取り巻く社会環境の急激な変化の中であって、自他の命を大切にすることは、時代を超えても変わらないものであることを理解させるため、子どもたちに生きる喜びを実感させ、自他の命を大切さにすることができる教育プログラムを作成した。

第 部の理論編では、子どもたちに「命の大切さ」を実感させる教育を推進していくための基盤となる考え方を示し、第 部の実践編では、「命の大切さ」を実感させる教育を実践していく上でのモデルとなる教育プログラムモデル及び授業用指導案、そしてこの教育におけるもう一つの基盤となる教員研修の具体例を示している。

b 『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集 ~ 』¹⁴⁾

(:2007年3月、 :2008年3月、 :2010年3月)

上記『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』で示した内容をもとに、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で実践された取組を紹介している。

実践事例の章では、年間をとおして計画・実施された指導の概要や具体的な授業内容、子どもたちや教員の振り返り、実践していく上で大切な教員研修の内容などを示している。また、授業プランの章では、年間計画の中で、特に重要な授業を取り出し、授業の進め方を中心とした詳細な指導案を示している。

イ これまでの研究成果を踏まえて

当センターは、上述のとおり、「心の教育授業案」の開発・研究を進めながら、今日的な課題に対応した実践研究を行ってきており、その研究成果は、センターの業務である教職員対象の研修講座や、児童生徒やその保護者を対象とした教育相談活動の企画・運営に活用してきた。しかし、社会が大きく変化し、児童生徒の抱える問題が多様化、深刻化する現在、心の教育をさらに充実させるためには、センターのこれまでの研究や活動を振り返り、今後の活動の在り方を改めて見直すことが必要である。

そこで、兵庫県内の各学校における心の教育の現状を把握し、今、学校で求められている心の教育の具体的な内容を明らかにするとともに、今後、当センターが取り組む研修及び研究に活かすため、県内の各学校を対象に調査を実施した。

2 「心の教育」に関する調査方法について

(1) 目的

いじめ、暴力行為等の問題行動や不登校等が依然として憂慮すべき状況にあり、「心の教育」を一層推進することが求められている。

本調査は、兵庫県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における「心の教育」の実施状況や今後望まれている具体的な支援などについて把握し、心の教育総合センターが次年度に向けて検討している「心の教育」に関する総合的なプログラムの作成に資することを目的とする。

(2) 対象

兵庫県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象とした。(ただし、神戸市立学校を除く)

なお、心の教育に関する取組状況等において、発達段階による違いを検討するため、小学校では、1年生から3年生、4年生から6年生の2部に分けて、また、特別支援学校では小学部、中学部、高等部の3部に分けて調査を依頼した。

(3) 内容

質問内容の詳細は、次頁に示すとおりである。全体は、質問 から質問 で構成されている。

質問 は、回答のあった学校に関する基本的な内容についてであり、学校・学年対象、回答者の校務分掌、学校の全児童生徒数、学校の地域に関する質問である。

質問 は、各学校の児童生徒における、不登校、暴力行為、いじめ等の状況に関する質問である。

質問 は、「心の教育」の実態に関する質問である。当センターが『『命の大切さを実感させる教育プログラム』実践事例集 』(2010年3月)で示した「5つの教育プログラムと代表的教育実践テーマ」の内容を中心に構成し、自殺やメンタルヘルス、教育相談の体制づくり、今後望まれる教員研修などに関する内容などを加えて作成した。

なお、各内容については、心の教育に見識のある小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の各教職員及び教育行政職員から意見の聴取を行い、質問内容等に反映させた。

(4) 調査方法

「心の教育」に関する調査票(A4判4頁、次頁を参照)によるアンケート調査とし、調査依頼状とともに平成22年11月下旬から12月上旬にかけて各学校へ送付した。

平成22年12月24日を目途に、各学校から当所へ直接返送する形で回収した。

(5) 分析方法

質問 は、学校・学年対象、回答者の校務分掌、学校の全児童生徒数、学校の地域について、その状況を実数で示す。

質問 は、学校・学年対象ごとに、不登校児童生徒数、暴力行為の件数、いじめの認知件数、中途退学者数の状況を実数で示し、さらに不登校児童生徒数、暴力行為の件数、いじめの認知件数の変化について割合で示す。

質問 は、1から26の各活動の取組状況について、各学校・学年ごとに示す。さらに各活動と、不登校、暴力行為、いじめとの関係について分析を行う。

「心の教育」に関する調査票

- I (1) このアンケートに回答していただく学校・学年対象は
1. 小学校 1年～3年
 2. 小学校 4年～6年
 3. 中学校 1年～3年
 4. 高等学校 1年～3年
 5. 特別支援学校 小学部
 6. 特別支援学校 中学部
 7. 特別支援学校 高等部
- (2) このアンケートの主たる回答者(複数で分担してもかまいません)の校務分掌は
1. 生徒指導担当
 2. 教育相談担当
 3. 教務担当
 4. 保健担当
 5. 教頭
 6. その他()
- (3) このアンケートに回答していただく学校の全児童生徒数は
1. 1人～100人
 2. 101人～200人
 3. 201人～400人
 4. 401人～600人
 5. 601人～800人
 6. 801人～1000人
 7. 1001人以上
- (4) あなたの学校の地域は<()>には市町名をご記入ください
1. 阪神()
 2. 播磨東()
 3. 播磨西()
 4. 但馬()
 5. 丹波()
 6. 淡路()

II このアンケートに回答していただく学校の児童生徒の不登校・問題行動等の実態について(おおよその印象でかまいません)

1. (1) 平成21年度の不登校児童生徒数は、全国平均(小学校0.3%、中学校2.8%、高等学校1.7%)に比べ
- (注「全国平均」：小・中・特別支援学校は「平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による。
：高等学校は上記調査または「兵庫県教育委員会事務局高校教育課のWebページ」掲載のデータによる。以下同じ。)
0. 該当者はいない
1. かなり少ない
 2. 少ない
 3. 同程度
 4. 多い
 5. かなり多い
- (注：上記選択肢の「かなり少ない」は全国平均の3分の1程度、「少ない」は全国平均の2分の1程度、「かなり多い」は全国平均の3倍程度、「多い」は2倍程度を目安とします。以下同じ。)
- (2) 過去5年間(平成17年度～平成21年度)、不登校児童生徒数の変化は
1. かなり減少した
 2. 減少した
 3. 変わらない
 4. 増加した
 5. かなり増加した
 6. 増加と減少の両方あった
- (3) 不登校の予防や不登校への対応について、どのような取組をしていますか。具体的に教えてください。
また、その中で、特に有効な取組に○をつけてください。

2. (1) 平成21年度の暴力行為の件数は、全国平均(小学校1.0件、中学校12.8件、高等学校3.0件：いずれも1000人あたりの件数)に比べ
0. 該当件数はない
1. かなり少ない
 2. 少ない
 3. 同程度
 4. 多い
 5. かなり多い
- (2) 過去5年間(平成17年度～平成21年度)、暴力行為件数の変化は
1. かなり減少した
 2. 減少した
 3. 変わらない
 4. 増加した
 5. かなり増加した
 6. 増加と減少の両方あった
- (3) 暴力行為の防止や暴力行為への対応について、どのような取組をしていますか。具体的に教えてください。
また、その中で、特に有効な取組に○をつけてください。

3. (1) 平成21年度のいじめの認知件数は、全国平均(小学校5.0件、中学校9.4件、高等学校1.8件、特別支援学校2.3件：いずれも1000人あたりの件数)に比べ
0. 該当件数はない
1. かなり少ない
 2. 少ない
 3. 同程度
 4. 多い
 5. かなり多い
- (2) 過去5年間(平成17年度～平成21年度)、いじめの認知件数の変化は
1. かなり減少した
 2. 減少した
 3. 変わらない
 4. 増加した
 5. かなり増加した
 6. 増加と減少の両方あった
- (3) いじめの防止やいじめへの対応について、どのような取組をしていますか。具体的に教えてください。
また、その中で、特に有効な取組に○をつけてください。

4. 高等学校(高等部)の方のみ、お答えください。
- 平成21年度の中途退学者の割合は、全国公立高等学校の平均(1.7%)に比べ
1. かなり少ない
 2. 少ない
 3. 同程度
 4. 多い
 5. かなり多い

Ⅲ 「心の教育」の実態について

「心の教育」とは、児童生徒自身の問題や家庭環境等に十分配慮した上で行う「児童生徒の心の健全な育成を図る活動」及び「問題行動を未然に防ぐ活動」です。

問1 あなたの学校では、昨年度(平成21年度)及び今年度(平成22年度)の2学期までの間で、次のような活動をどの程度行っていますか。0、1、2の中から1つを選び、○をしてください。

また、それは、どの時間で行っていますか。教科、道徳、総合的な学習の時間(総合)、ホームルーム(HR)の中から選び、○をしてください。教科やその他の()には、該当するものを記入してください。(複数回答可)

なお、「かなりやっている」は、年間計画を立て、学校や学年全体の体制のもとで実施している場合、「少しやっている」は、試みとして実施している場合とします。

活 動	や っ て い な い	少 し や っ て い る	か な り や っ て い る	実 施 し て い る 時 間 等
1. 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
2. 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
3. これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
4. 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
5. 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
6. 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
7. 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
8. 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
9. 3つの言い方(攻撃的、非主張的、アサーティブ)を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
10. 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
11. インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
12. ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
13. その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
14. 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()
15. 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0	1	2	教科()・道徳・総合・HR・その他()

活 動	や っ て い な い	少 し や っ て い る	か な り や っ て い る	実 施 し て い る 時 間 等
16. 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
17. いじめに関する実態調査等の実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
18. いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
19. 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
20. 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
21. 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
22. 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0	1	2	教科 () ・ 道徳 ・ 総合 ・ HR ・ その他 ()
23. スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラーが担任と共同して行う授業や実習等	0	1	2	時間や内容など、お書きください。
24. 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0	1	2	時間や内容など、お書きください。
25. 不登校児童生徒への組織的な取組	0	1	2	時間や内容など、工夫していることがありましたらお書きください。
26. 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	0	1	2	時間や内容など、工夫していることがありましたらお書きください。

27. 上記1から26の内容の中で、「心の教育」として特に効果的であると考えer内容について、その番号を3つご記入ください。

--	--	--

28. 上記1から26の内容の中で、「心の教育」として、今後行いたいと考えていることについて、その番号を3つご記入ください。

--	--	--

問2 上記の1から26以外の「心の教育」について、各校で行われている活動がありましたら、自由にご記入ください。

--

問3 「心の教育」に関する、次の出版物(冊子、インターネット上の公開など)を利用したことがありますか。

「ある」、「ない」のどちらかに○をしてください。

また、下の空欄には、ここにあげた以外で、特によく使用する出版物等について3点までご記入ください。

	利用の有無
1. 心の教育授業実践研究第1号～第7号	ある ・ ない
2. 学校における心の危機対応実践 ハンドブック	ある ・ ない
3. 学校のストレスマネジメント研究	ある ・ ない
4. 学校・家庭・地域における 暴力防止プログラム研究	ある ・ ない

	利用の有無
5. 「命の大切さ」を実感させる 教育への提言	ある ・ ない
6. 「命の大切さを実感させる 教育プログラム」実践事例集Ⅰ～Ⅲ	ある ・ ない
7. 心のノート	ある ・ ない

--	--	--

問4 「心の教育」に関して、どのような支援活動や教材があるとよいと思いますか。自由にご記入ください。

--

問5 「心の教育」に関して、どのような教員研修があるとよいと思いますか。自由にご記入ください。

--

問6 その他、「心の教育」について、ご要望やご意見等がございましたら、ご記入ください。

--

学校全体で「心の教育」に関するプログラムを実施・展開している学校については、詳細をお尋ねしたいと考えておりますので、学校名をご記入いただければ幸いです。

学校名 () 立 () 学校

3 「心の教育」に関する調査結果について

(1) 学校・学年の割合

本調査は、兵庫県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の1,103校を対象とした。(ただし、神戸市立学校を除く)

小学校451校(対象の72%)、中学校193校(対象の72%)、高等学校144校(対象の86%)、特別支援学校31校(対象の82%)から回答があった。各校種における配布枚数、回収枚数等は、表1のとおりである。

表1 各校種における配布枚数、回収枚数等

校種	配布枚数	回収枚数	回収率	回収枚数
小学校	629	451	72%	375枚(1年~3年)
				394枚(4年~6年)
				47枚(1年~6年)
中学校	269	193	72%	193枚(1年~3年)
高等学校	167	144	86%	144枚(1年~3年)
特別支援学校	38	31	82%	27枚(小学部)
				28枚(中学部)
				24枚(高等部)
				2枚(小中高等部)

小学校は「1年から3年」と「4年から6年」に分けて、特別支援学校は「小学部」「中学部」「高等部」に分けて調査の依頼をしたが、回答のうち全学年及び学部を合わせた回答など「学校・学年対象」の欄を複数選択しているものについては、発達段階の特定が困難であることから分析対象から除くこととし、合計1,185枚を有効回答(回収枚数の96%)とした。

(2) 回答者の校務分掌

調査の主たる回答者の校務分掌は、表2のとおりである。(複数回答可)

表2 主たる回答者の校務分掌

学校・学年	生徒指導担当	教育相談担当	教務担当	保健担当	教頭	その他
小学校低学年	110	28	23	19	96	127
小学校高学年	181	17	34	7	107	78
中学校	88	29	12	6	78	32
高等学校	61	60	11	41	38	10
特別支援学校小学部	2	2	2	1	2	17
特別支援学校中学部	2	0	3	0	3	18
特別支援学校高等部	1	1	1	1	3	16

小、中学校では、生徒指導担当と教頭が多く、高等学校では、生徒指導担当と教育相談担当が多い。「その他」は、小学校低学年では、担任、道徳教育担当、人権教育担当、特別支援教育コーディネーターなど、特別支援学校では、各部長、人権教育担当、道徳教育担

当などが多い。

(3) 学校の全児童生徒数

回答のあった学校の全児童生徒数は、表3のとおりである。なお、当質問項目において無回答のものは除外した。無回答の扱いについては、以下同様とする。

表3 回答のあった学校の全児童生徒数

学校・学年	1人～ 100人	101人～ 200人	201人～ 400人	401人～ 600人	601人～ 800人	801人～ 1000人	1001人 以上
小学校低学年	88	68	84	59	35	24	13
小学校高学年	83	70	94	62	37	27	14
中学校	18	34	50	49	24	17	1
高等学校	10	10	19	17	41	42	4
特別支援学校小学部	19	3	5	0	0	0	0
特別支援学校中学部	20	3	4	1	0	0	0
特別支援学校高等部	16	3	4	0	0	0	0

小学校では、低学年、高学年とも「1人～100人」「201人～400人」が多く、中学校では「201人～400人」「401人～600人」が、高等学校では、「601人～800人」「801人～1000人」が、特別支援学校では、「1人～100人」が多い。

(4) 学校の地域

回答のあった学校の地域は、表4のとおりである。

表4 回答のあった学校の地域

学校・学年	阪神	播磨東	播磨西	但馬	丹波	淡路
小学校低学年	74	90	98	57	25	29
小学校高学年	83	87	107	58	26	30
中学校	47	48	55	20	9	14
高等学校	52	31	31	12	10	6
特別支援学校小学部	12	6	4	3	1	1
特別支援学校中学部	13	4	5	3	1	1
特別支援学校高等部	10	5	5	1	2	1

小学校低学年、小学校高学年、中学校は、播磨西地域からの回答が多く、高等学校、特別支援学校は、阪神地域からの回答が多い。

(5) 学校の不登校児童生徒数

ア 平成21年度の不登校児童生徒数

回答のあった学校の平成21年度の不登校児童生徒数は、表5のとおりである。

表5 回答のあった学校の平成21年度の不登校児童生徒数（全国平均との比較）

学校・学年	該当者は いない	かなり 少ない	少ない	同程度	多い	かなり 多い
小学校低学年	226	68	20	42	9	3
小学校高学年	194	88	30	54	13	8
中学校	14	23	45	67	33	8
高等学校	12	54	37	21	5	10
特別支援学校小学部	18	5	1	1	0	1
特別支援学校中学部	13	8	2	3	0	0
特別支援学校高等部	8	8	1	5	1	0

小学校では、低学年、高学年ともに「該当者はいない」が最も多く、「かなり少ない」が続いている。中学校では、「同程度」が最も多く、「少ない」が続いているが、その次が「多い」となっており、他と異なっている。高等学校では、「かなり少ない」「少ない」が多く、特別支援学校では、「該当者はいない」「かなり少ない」が多い。

イ 過去5年間の不登校児童生徒数の変化

回答のあった学校の過去5年間（平成17年度～平成21年度）の不登校児童生徒数の変化は、表6及び図1のとおりである。

表6 回答のあった学校の過去5年間の不登校児童生徒数の変化

学校・学年	かなり 減少した	減少した	変わら ない	増加した	かなり 増加した	増加と減 少の両方 あった
小学校低学年	39	78	199	21	0	7
小学校高学年	46	80	203	22	0	14
中学校	8	46	91	26	3	19
高等学校	5	24	91	11	1	6
特別支援学校小学部	0	0	20	1	0	0
特別支援学校中学部	3	1	20	3	0	0
特別支援学校高等部	0	2	17	2	1	0

全学校・学年とも、「変わらない」が最も多い。小学校、中学校、高等学校は、「減少した」が続いている。その次に多いのは、小学校では「かなり減少した」となっているが、中学校、高等学校では「増加した」となっている。

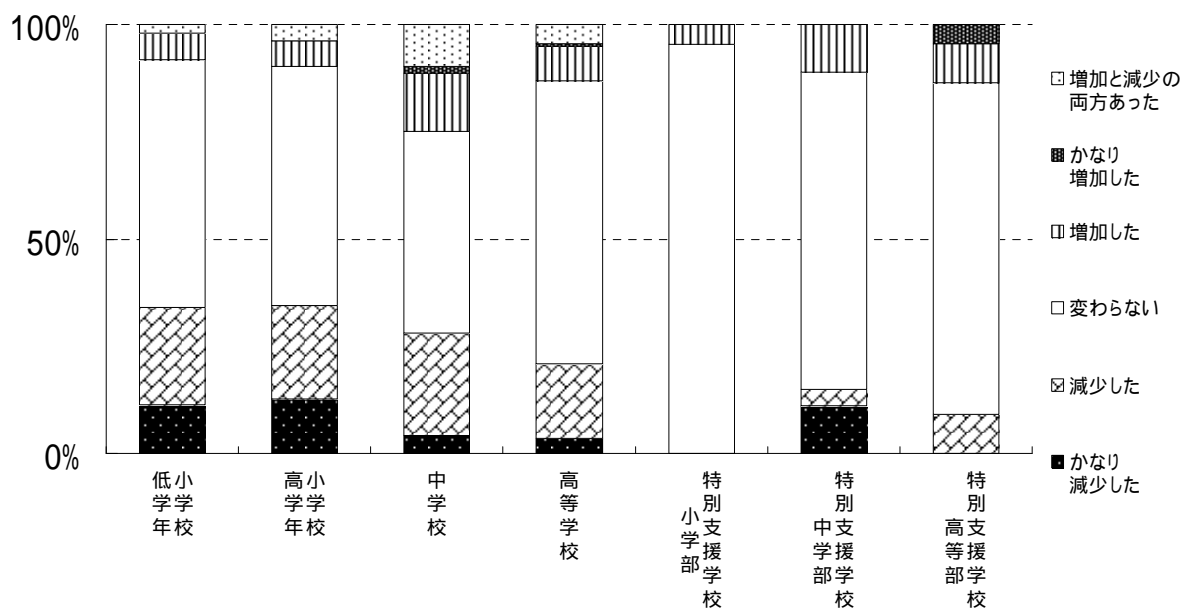


図1 回答のあった学校の過去5年間の不登校児童生徒数の変化

(6) 学校の暴力行為の件数

ア 平成21年度の暴力行為の件数

回答のあった学校の平成21年度の暴力行為の件数は、表7のとおりである。

表7 回答のあった学校の平成21年度の暴力行為の件数（全国平均との比較）

学校・学年	該当件数はない	かなり少ない	少ない	同程度	多い	かなり多い
小学校低学年	325	20	11	10	2	0
小学校高学年	325	30	16	13	3	0
中学校	51	60	36	22	21	2
高等学校	39	36	15	31	16	3
特別支援学校小学部	22	2	1	0	1	0
特別支援学校中学部	22	5	1	0	0	0
特別支援学校高等部	15	4	3	1	0	0

小学校では、低学年、高学年ともに「該当件数はない」が最も多い。続いて「かなり少ない」となっている。「該当件数はない」「かなり少ない」が多いのは、中学校及び高等学校においても同様であるが、「多い」と「かなり多い」を合わせた回答数が、それぞれ23件、19件あり、他と比べて多くなっている。特別支援学校では、「該当件数はない」が最も多い。

イ 過去5年間の暴力行為の件数の変化

回答のあった学校の過去5年間(平成17年度～平成21年度)の暴力行為の件数の変化は、表8及び図2のとおりである。

表 8 回答のあった学校の過去5年間の暴力行為の件数の変化

学校・学年	かなり減少した	減少した	変わらない	増加した	かなり増加した	増加と減少の両方あった
小学校低学年	32	25	274	2	0	2
小学校高学年	36	27	287	2	0	4
中学校	26	55	83	12	2	11
高等学校	24	31	70	6	0	7
特別支援学校小学部	1	0	19	0	0	0
特別支援学校中学部	1	1	23	1	0	0
特別支援学校高等部	1	0	17	2	0	0

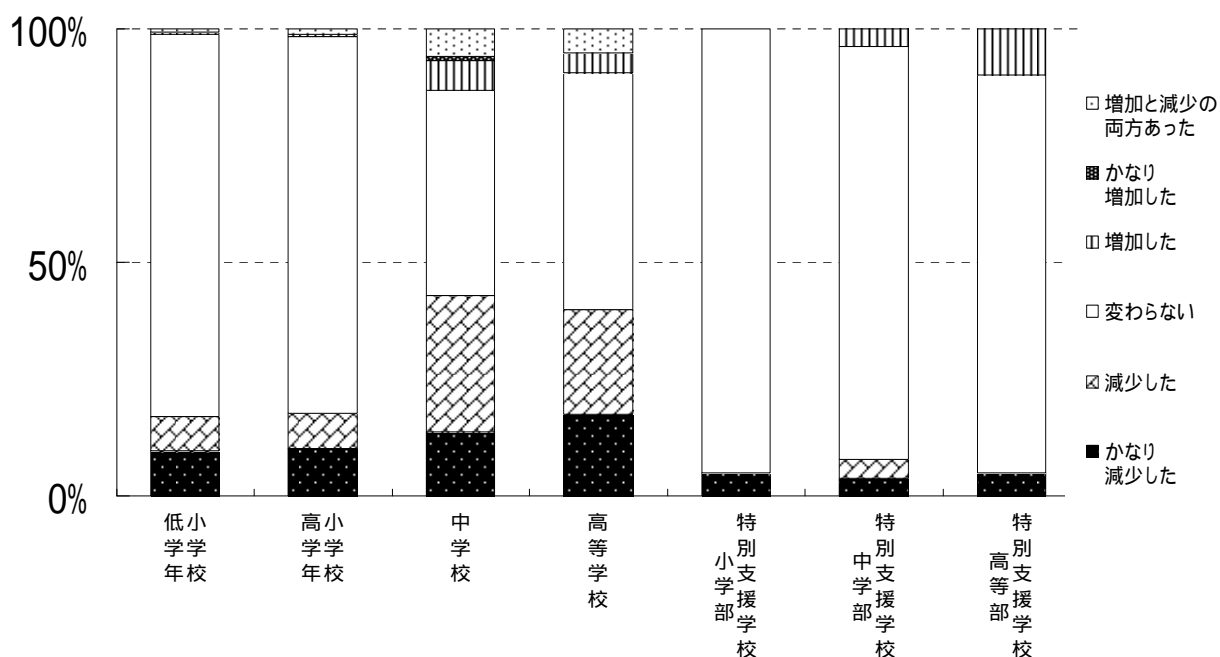


図 2 回答のあった学校の過去5年間の暴力行為の件数の変化

全学校・学年とも、「変わらない」が最も多い。小学校では、それに「かなり減少した」「減少した」が続いている。中学校及び高等学校では、「減少した」と「かなり減少した」が続いているが、「増加した」はそれぞれ12件、6件となっており、「増加と減少の両方あった」はそれぞれ11件、7件となっている。

(7) 学校のいじめの認知件数

ア 平成21年度のいじめの認知件数

回答のあった学校の平成21年度のいじめの認知件数は、表9のとおりである。

小学校と特別支援学校ともに「該当件数はない」が最も多い。続いて「かなり少ない」となっている。中学校、高等学校ともに「かなり少ない」が多いが、「多い」「かなり多い」を合わせた回答数が、それぞれ12件、8件あり、他と比べて多くなっている。

表9 回答のあった学校の平成21年度のいじめの認知件数（全国平均との比較）

学校・学年	該当件数 はない	かなり 少ない	少ない	同程度	多い	かなり 多い
小学校低学年	215	98	37	13	0	0
小学校高学年	205	123	40	18	1	0
中学校	38	70	42	30	11	1
高等学校	40	41	24	28	8	0
特別支援学校小学部	20	5	1	0	0	0
特別支援学校中学部	20	7	1	0	0	0
特別支援学校高等部	18	4	2	0	0	0

イ 過去5年間のいじめの認知件数の変化

回答のあった学校の、過去5年間（平成17年度～平成21年度）のいじめの認知件数の変化は、表10及び図3のとおりである。

表10 回答のあった学校の過去5年間のいじめの認知件数の変化

学校・学年	かなり 減少した	減少した	変わら ない	増加した	かなり 増加した	増加と減 少の両方 あった
小学校低学年	39	34	257	2	0	4
小学校高学年	33	47	262	7	0	6
中学校	21	53	102	7	1	4
高等学校	10	25	92	5	0	5
特別支援学校小学部	0	1	19	0	0	0
特別支援学校中学部	1	1	22	0	0	0
特別支援学校高等部	0	0	19	1	0	0

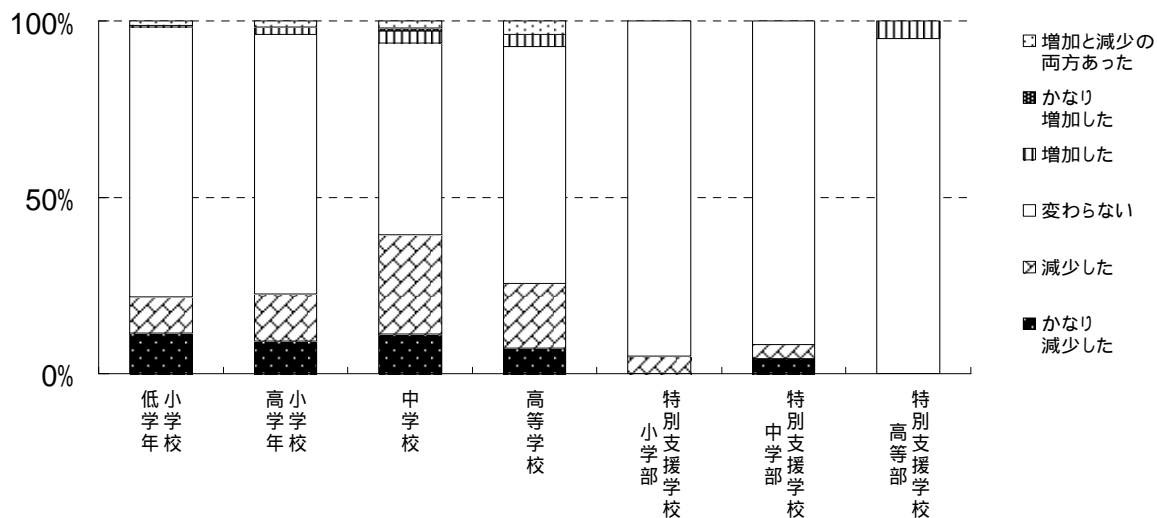


図3 回答のあった学校の過去5年間のいじめの認知件数の変化

全学校・学年とも、「変わらない」が最も多い。小学校、中学校、高等学校とも、「かなり減少した」または「減少した」がそれに続いているが、小学校高学年、中学校、高等学校では、「増加した」の回答数は、それぞれ7件、7件、5件となっており、また「増加と減少の両方あった」の回答数は、それぞれ6件、4件、5件となっている。

(8) 高等学校（高等部）における中途退学者の割合

回答のあった高等学校（高等部）の中途退学者の割合と全国の高等学校における中途退学者の割合を全国公立高等学校の平均と比較したものが、表11である。

高等学校、特別支援学校高等部とも、「かなり少ない」が最も多い。

表11 回答のあった高等学校（高等部）の中途退学者の割合

学校・学年	かなり少ない	少ない	同程度	多い	かなり多い
高等学校	48	39	14	22	18
特別支援学校高等部	20	0	1	0	0

(9) 各学校・学年と「心の教育」の各活動との関連

本報告書の本文では、調査票の各活動（全26項目）について、以下の様に示すこととする。

調査票の各活動についての表記	報告書本文で示す各活動についての表記
1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動
2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動
3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	3 自分の成長を振り返る活動
4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	(左記と同じ)
5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	(左記と同じ)
6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	6 動植物などの死について、話し合ったり考えたりする活動
7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記などから命や死について考える活動
8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動
9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	9 自己の気持ちや考えを表現する活動

10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動
11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	11 インターネットの利便性等について学ぶ活動
12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動
13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	13 社会性を体験的に学ぶ活動
14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	(左記と同じ)
15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	15 自分の性格などについて理解を深める活動
16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	16 暴力行為の現状等に関する授業等の実施
17 いじめに関する実態調査等の実施	(左記と同じ)
18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	(左記と同じ)
19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	19 自殺に関する現状等に関する授業等の実施
20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	20 メンタルヘルスに関する授業等の実施
21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定
22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	22 児童生徒の心身の健康状態を調べるアンケートの実施
23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施
24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施
25 不登校児童生徒への組織的な取組	(左記と同じ)
26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	26 チームで対応できる教育相談の体制づくり

ア 小学校、中学校、高等学校における実施状況

各学校・学年における、調査票の で示した「心の教育」に関する各活動（全26項目）の実施状況について確認した。実施状況の特徴を、児童生徒の年齢が低いほど実施している「低年齢実施型」、年齢が高いほど実施している「高年齢実施型」、小学校高学年や中学校での実施が多い「中間型」、「その他」の4タイプに分類した。

(ア) 「低年齢実施型」について（図4から図8）

「1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動」や「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」は、主に小学校で行われている。また、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」も同様である。

さらに、「6 動植物などの死について、話し合ったり考えたりする活動」「8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動」についても同様であるが、上記の活動に比べると実施の割合はやや低い。

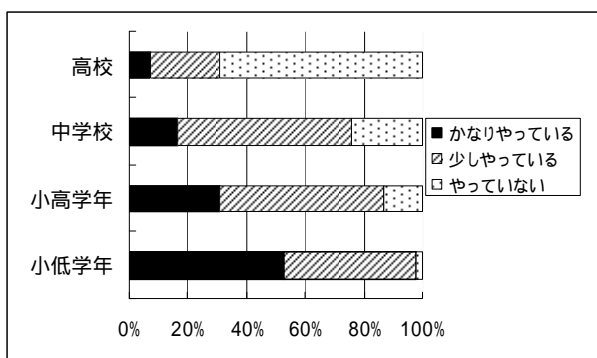


図4 1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動

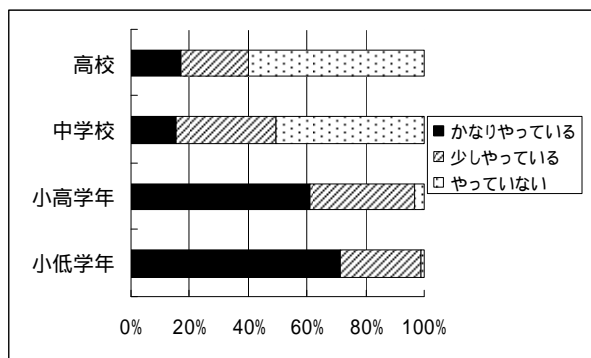


図5 4 動植物の飼育をしたり、観察したりする活動

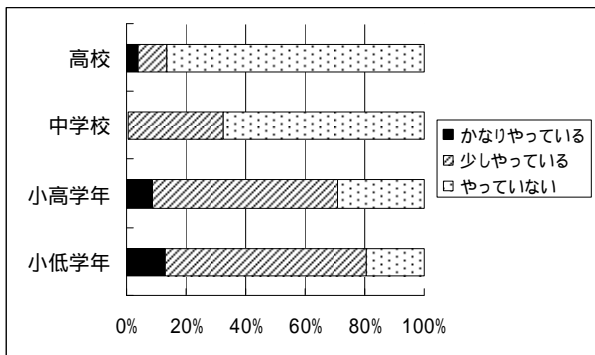


図6 6 動植物やペットの死について、話し合ったり考えたりする活動

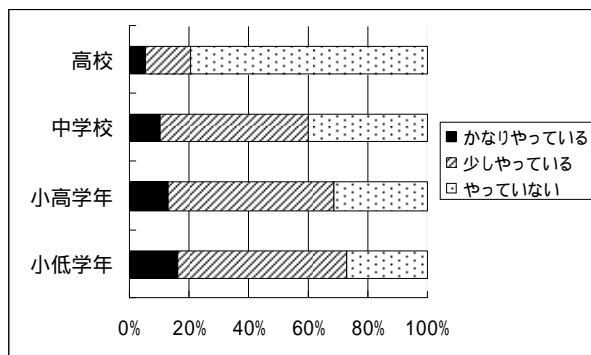


図7 8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動

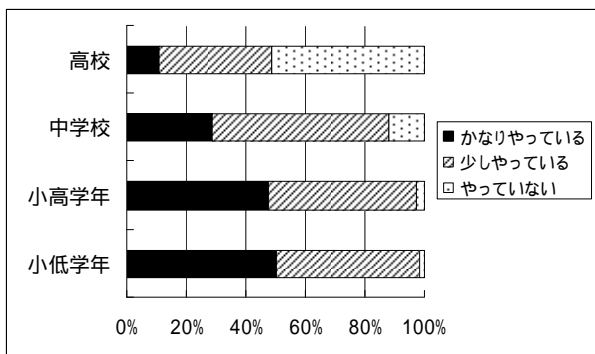


図8 10 友だちの「いいとこさがし」や友だちと協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動

(イ) 「高年齢実施型」について (図9から図11)

「12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」や「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」、「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」については、小学校に比べて高等学校及び中学校での実施が多い。特に、高等学校において、「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」は、「かなりやっている」と「少しやっている」を合わせると約50%の学校で実施されている。

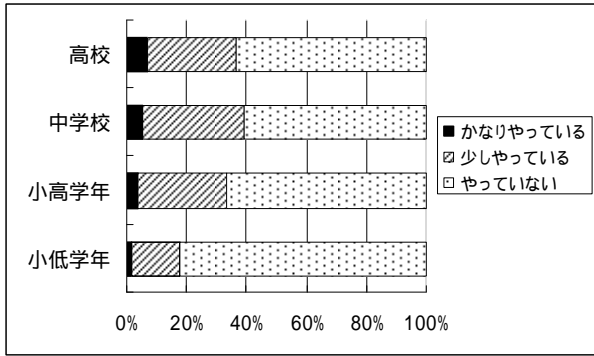


図9 12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動

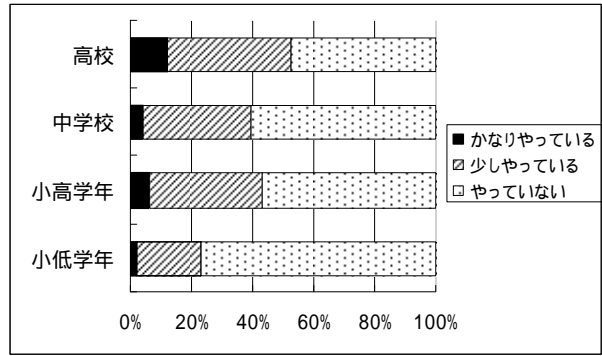


図10 20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施

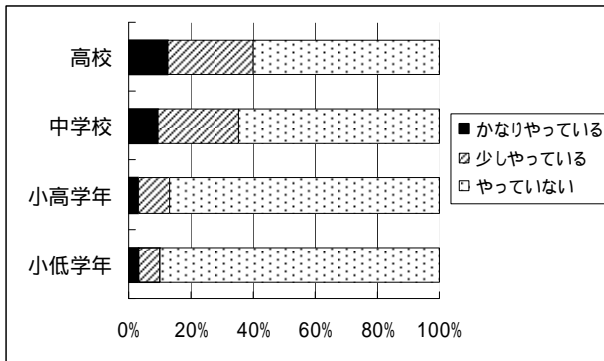


図11 24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施

(ウ) 「中間型」について (図12から図25)

中学校での実施が最も多い活動 (図12から図23) と、小学校高学年での実施が最も多い活動 (図24、図25) に分けた。

中学校及び小学校高学年を中心に多く実施されている活動は、「7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記などから命や死について考える活動」「17 いじめに関する実態調査等の実施」「18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施」である。

また、「11 インターネットの利便性等について学ぶ活動」や「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」、「25 不登校児童生徒への組織的な取組」が、中学校を中心に多く実施されている。

一方、「3 自分の成長を振り返る活動」や「9 自己の気持ちや考えを表現する活動」は、小学校高学年を中心に多く実施されており、特に前者の実施割合が高い。

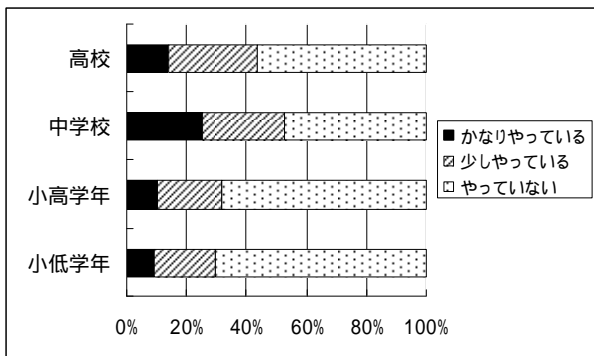


図 12 2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動

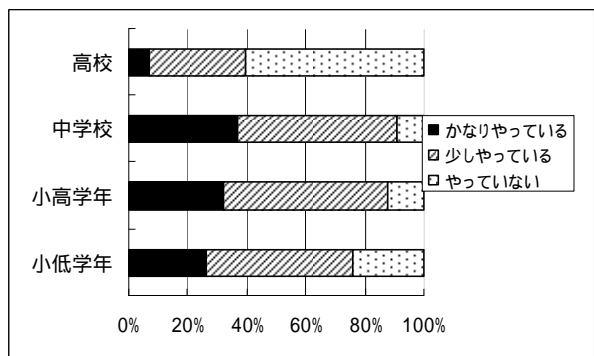


図 13 7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動

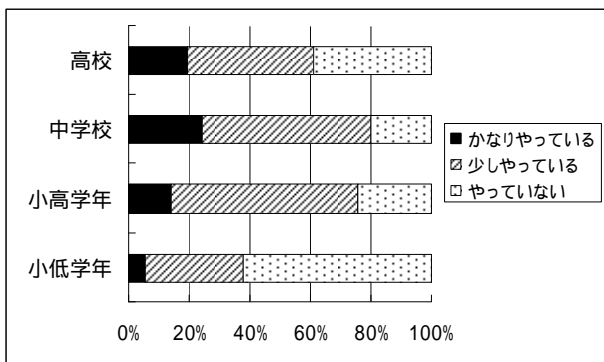


図 14 11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどをを用い学ぶ活動

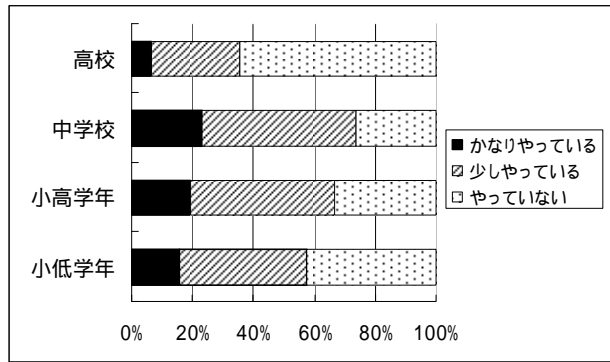


図 15 14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動

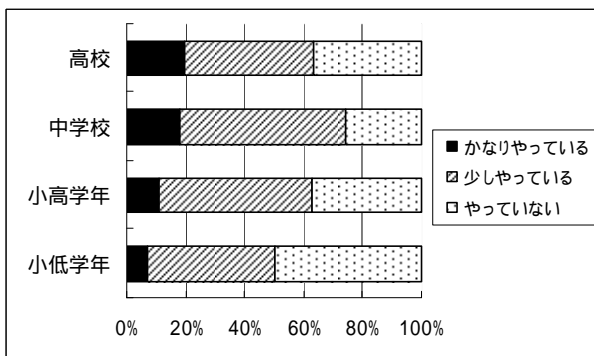


図 16 15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動

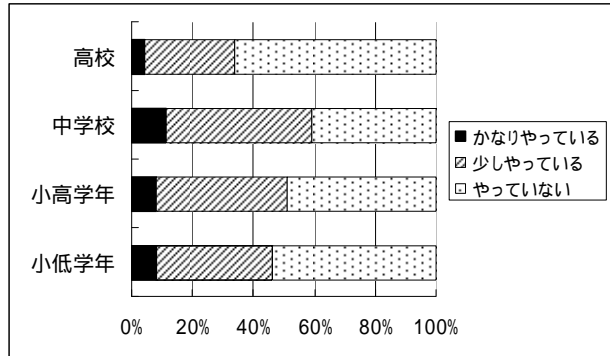


図 17 16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施

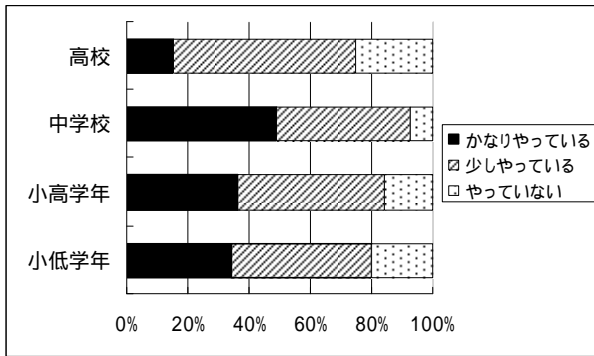


図 18 17 いじめに関する実態調査等の実施

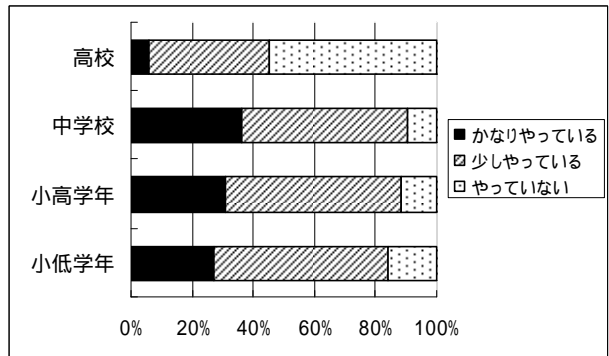


図 19 18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施

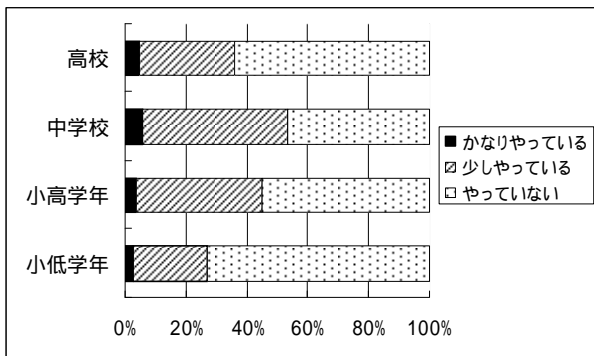


図 20 19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施

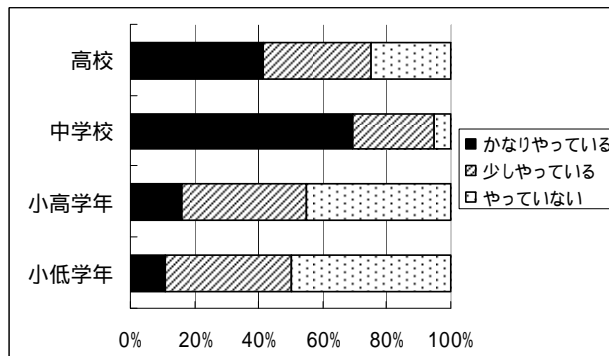


図 21 21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定

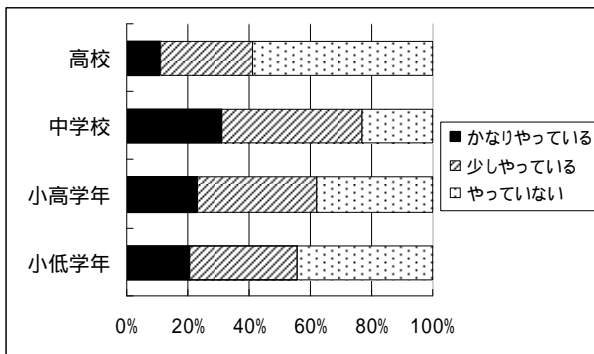


図 22 22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施

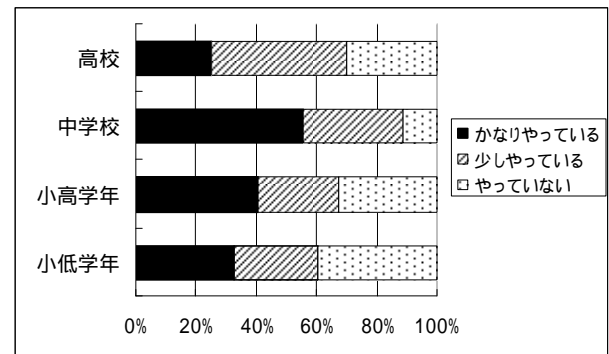


図 23 25 不登校児童生徒への組織的な取組

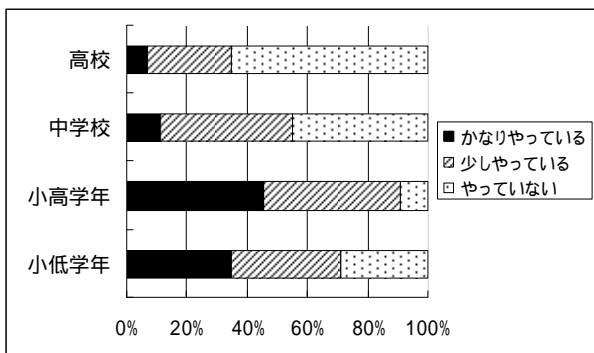


図 24 3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動

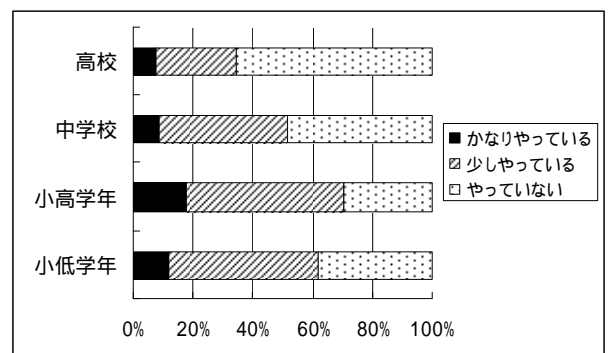


図 25 9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動

(I) 「その他」について (図26から図29)

「5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動」や「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」は、全体的に多く実施されている。

また、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」についても、同様の傾向である。

一方、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」は、全体的に10%から20%程度の学校で行われている。

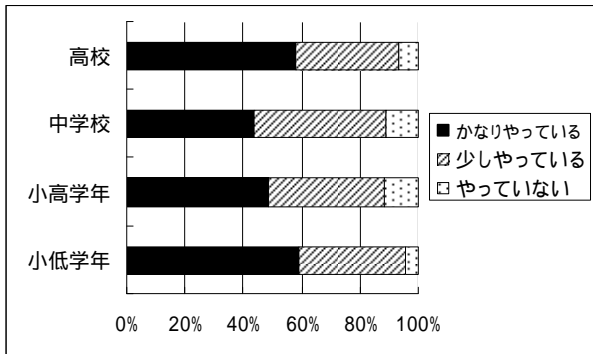


図 26 5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動

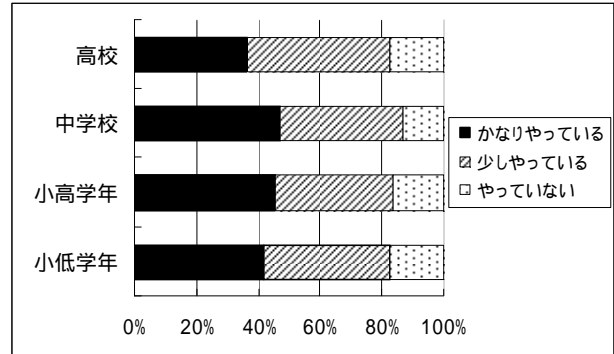


図 27 26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり

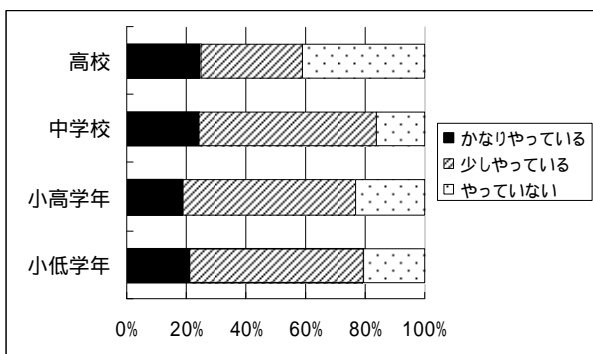


図 28 13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動

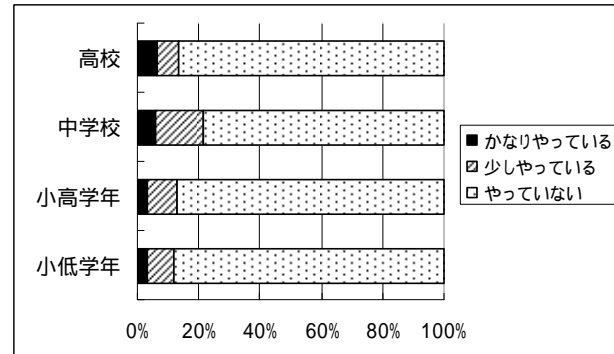


図 29 23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラーが担任と共同して行う授業や実習等

イ 小学校、中学校、高等学校における実施状況 (上位、下位の各5位)

各学校・学年における、調査票の で示した「心の教育」に関する各活動 (全26項目) の実施状況について、各学校・学年ごとに1位から26位まで順位をつけ、上位と下位のそれぞれ5つの活動を示したのが、表12である。

なお、各活動の順位をつけるにあたっては、「やっていない」を0点、「少しやっている」を1点、「かなりやっている」を2点とし、各活動の平均値を算出し、学校・学年ごとに比較した。

表12 小学校、中学校、高等学校における「心の教育」に関する各活動の実施状況

順位	小学校低学年	小学校高学年	中学校	高等学校
1	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動
2	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	25 不登校児童生徒への組織的な取組	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり
3	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	17 いじめに関する実態調査等の実施	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定
4	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	25 不登校児童生徒への組織的な取組
5	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	17 いじめに関する実態調査等の実施
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
22	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動
23	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施
24	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動
25	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施
26	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動

上位5位について、小学校では、低学年、高学年ともに、共通した部分が多い。「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」や「5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動」、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」や「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」といった活動が上位を占めている。

一方、中学校及び高等学校では、「5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動」や「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」については小学校と共通しているが、「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」や「25 不登校児童生徒への組織的な取組」、「17 いじめに関する実態調査等の実施」については、中学校と高等学校で共通している。

下位5位については、小学校では上位と同様、低学年、高学年ともに共通した部分が多い。「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」や「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」、「12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」や「19 自殺に関する現状等に関する授業等の実施」などの活動が共通して下位となっている。

一方、中学校及び高等学校では、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」や「6 動植物などの死について、話し合ったり考えたりする活動」については共通しているが、その他は同じ活動は見られない。

ウ 特別支援学校における実施状況（図30から図55）

小学部、中学部、高等部の各部における、調査票の で示した「心の教育」に関する各活動（全26項目）の実施状況について確認した。

全体をとおして実施割合の高い活動は、「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」や「13 社会性を体験的に学ぶ活動」、「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」である。

年齢が高くなるにつれて多く実施されている活動は、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」や「11 インターネットの利便性等について学ぶ活動」、「15 自分の性格などについて理解を深める活動」や「25 不登校児童生徒への組織的な取組」である。

年齢が低いほど多く実施されている活動は、「7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記などから命や死について考える活動」や「8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動」である。

全体をとおして実施割合の低い活動は、「19 自殺に関する現状等に関する授業等の実施」や「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」、「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」である。

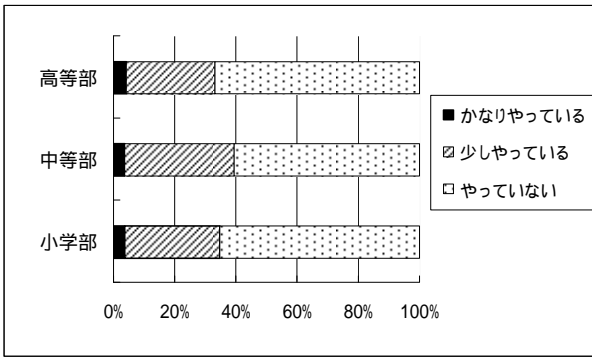


図 30 1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動

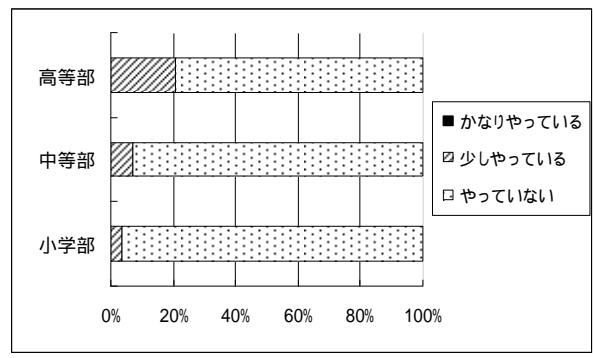


図 31 2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動

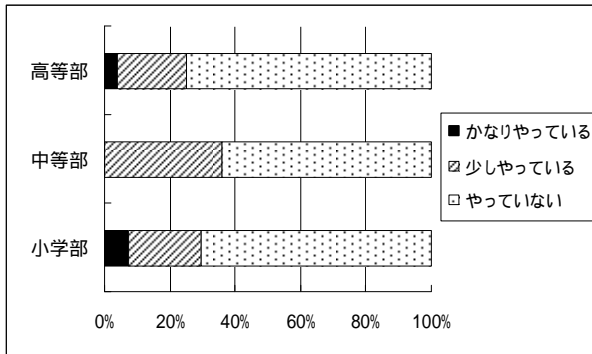


図 32 3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動

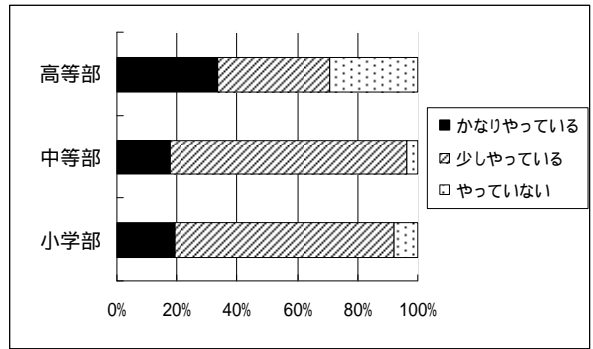


図 33 4 動植物の飼育をしたり、観察したりする活動

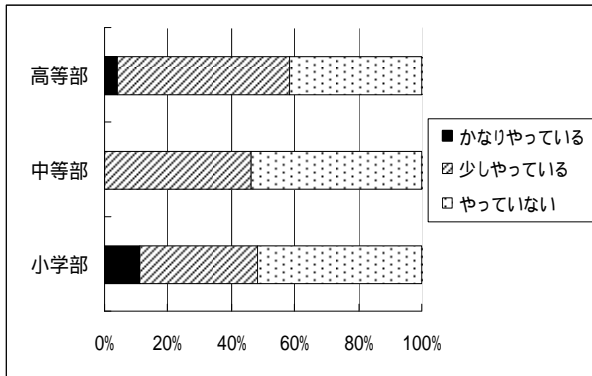


図 34 5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動

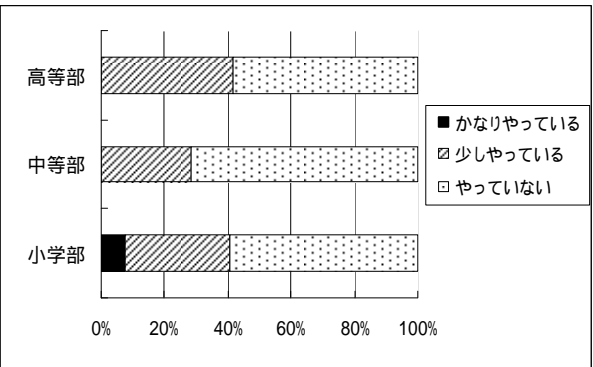


図 35 6 動植物やペットの死について、話し合ったり考えたりする活動

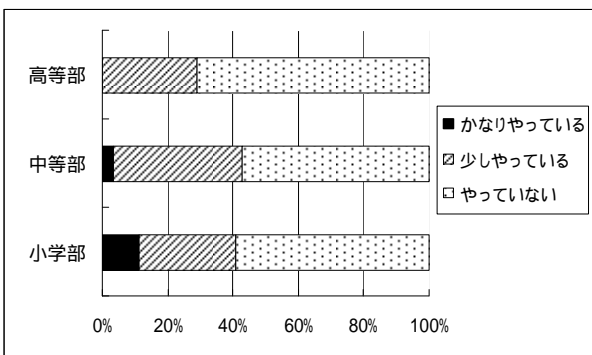


図 36 7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動

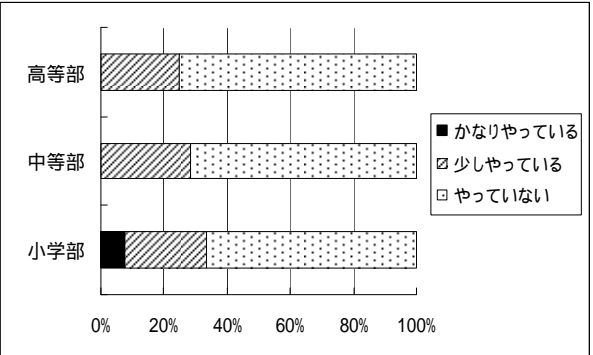


図 37 8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動

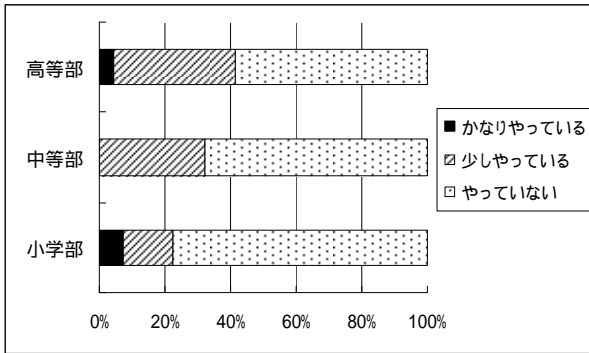


図 38 9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動

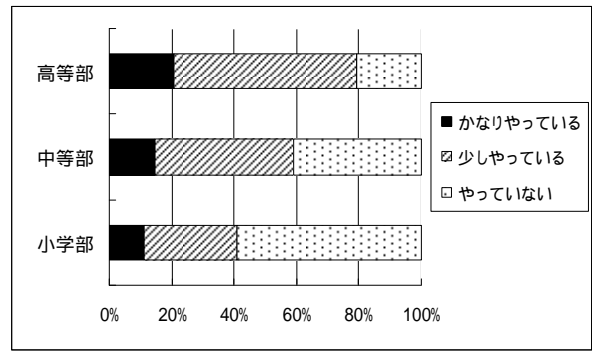


図 39 10 友だちの「いいとこさがし」や友だちと協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動

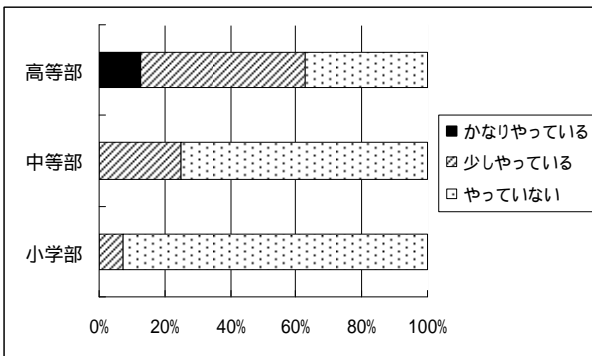


図 40 11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動

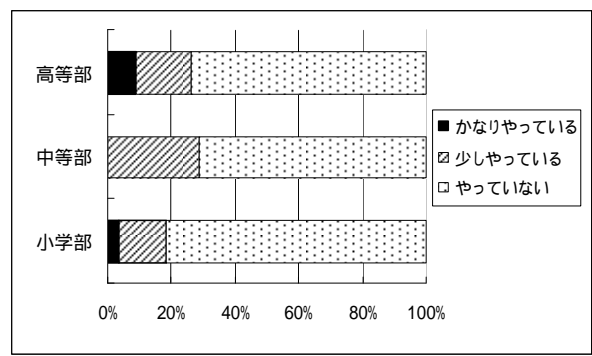


図 41 12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動

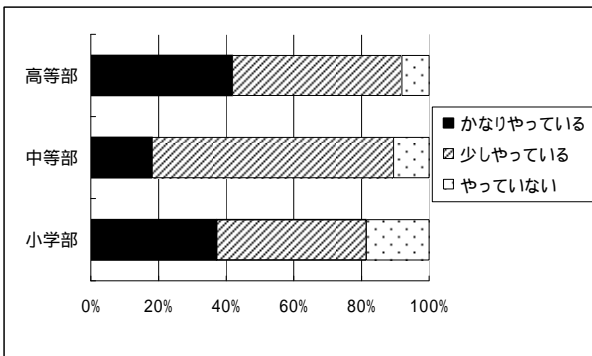


図 42 13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動

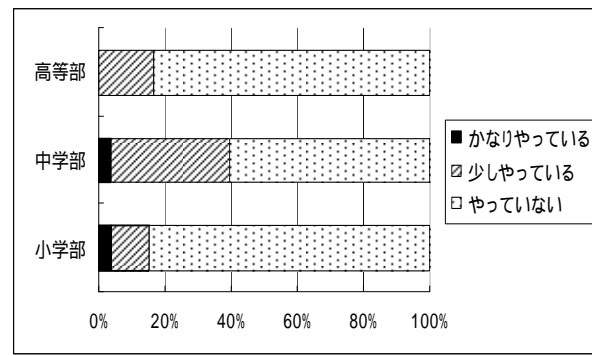


図 43 14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動

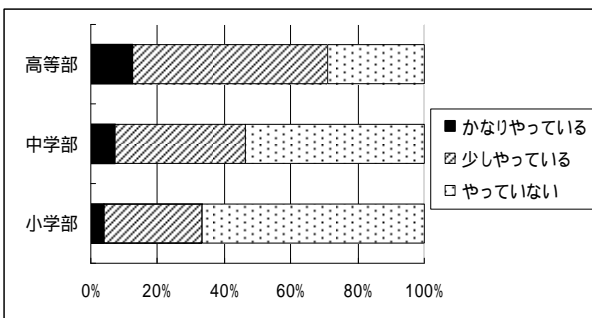


図 44 15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動

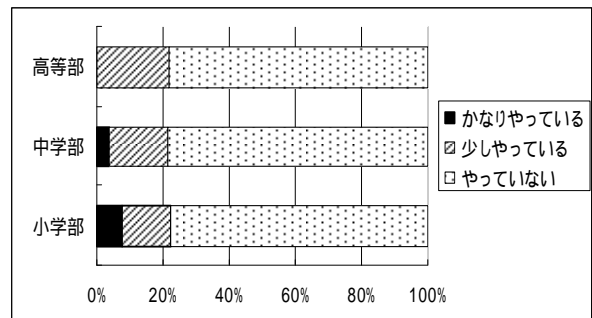


図 45 16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施

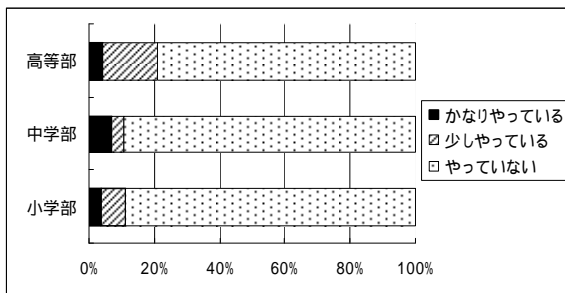


図 46 17 いじめに関する実態調査等の実施

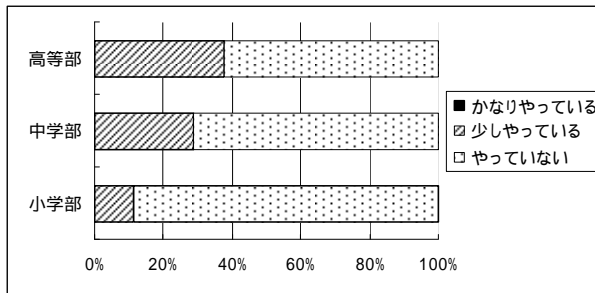


図 47 18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施

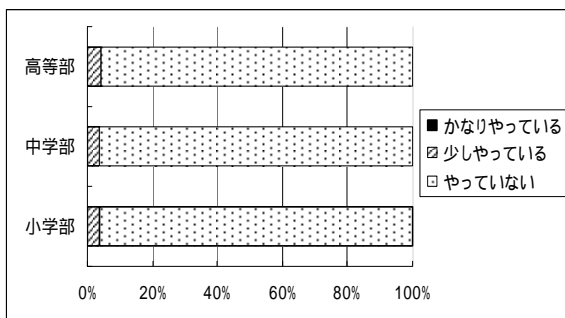


図 48 19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施

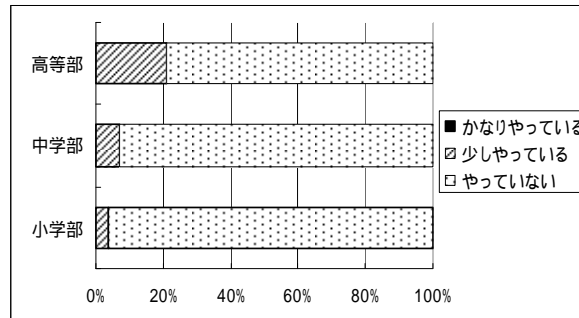


図 49 20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施

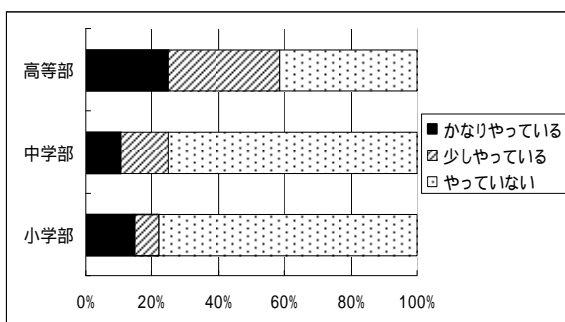


図 50 21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定

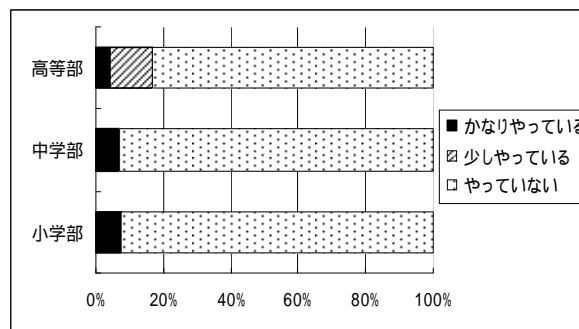


図 51 22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施

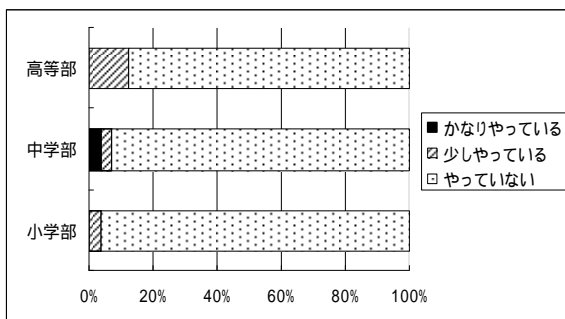


図 52 23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラーが担任と共同で行う授業や実習等

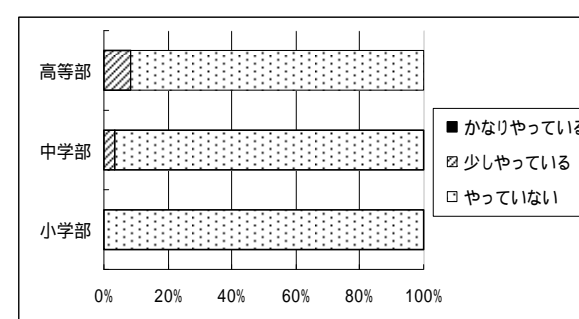


図 53 24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施

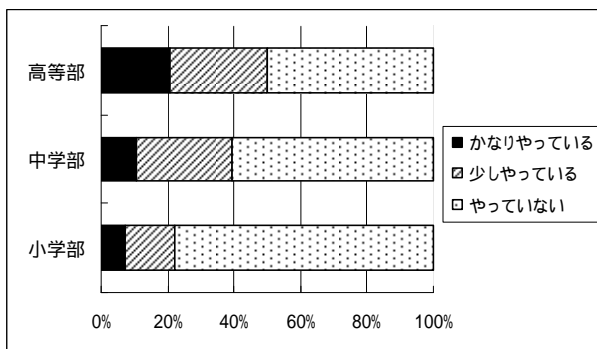


図 54 25 不登校児童生徒への組織的な取組

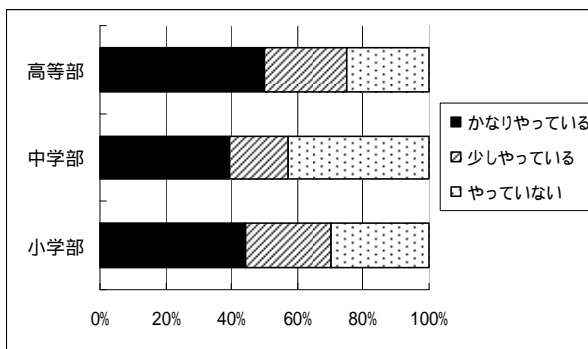


図 55 26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり

エ 特別支援学校における実施状況（上位、下位の各5位）

小学部、中学部、高等部の各部における、調査票の で示した「心の教育」に関する各活動（全26項目）の実施状況について、各部で1位から26位まで順位をつけ、上位と下位のそれぞれ5つの活動を示したのが、表13である。各活動の順位をつけるにあたっては、小学校、中学校、高等学校の場合と同様に「やっていない」を0点、「少しやっている」を1点、「かなりやっている」を2点とし、各活動の平均値を算出し、各部で比較した。

上位5位のグループでは、上位3位の内容は、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」の3つの活動で共通している。また、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」は、中学部と高等部ともに4位となっている。

下位5位のグループにおいても、共通した活動が多い。「19 自殺に関する現状等に関する授業等の実施」や「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」や「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」の4つの活動は、全体で共通している。また、「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」は、小学部と中学部で共通している。

表13 特別支援学校における「心の教育」に関する各活動の実施状況

順位	特別支援学校 小学部	特別支援学校 中学部	特別支援学校 高等部
1	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり
2	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動
3	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動

4	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動
5	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
22	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施
23	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施
24	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動
25	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施
26	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施

(10) 不登校・問題行動等と「心の教育」の各活動との関連

不登校、暴力行為、いじめと「心の教育」の各活動との関連を見るために、因子分析という統計手法を用いて、26項目の活動を同じような活動に分類した。その結果、実施頻度が少ない6項目を除いた20項目を、3つの活動にまとめたものが表14である。

第一は、「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」「1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動」などで「命の教育」と、第二は、「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」「15 自分の性格などについて理解を深める活動」などで「心の健康教育」と、第三は、「17 いじめに関する実態調査等の実施」「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」などで「個別相談体制」と名付けることとする。

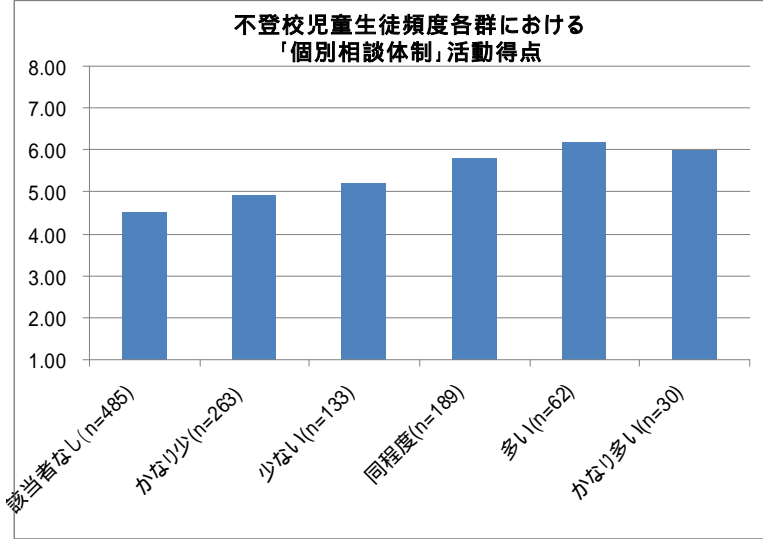
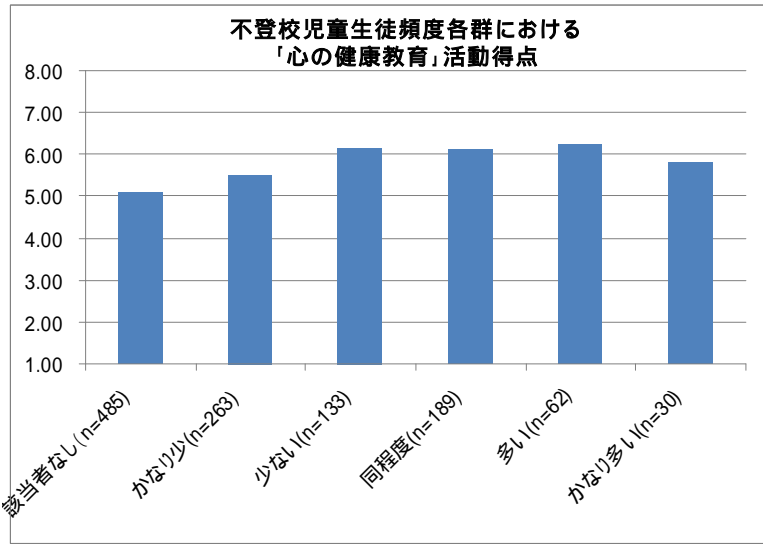
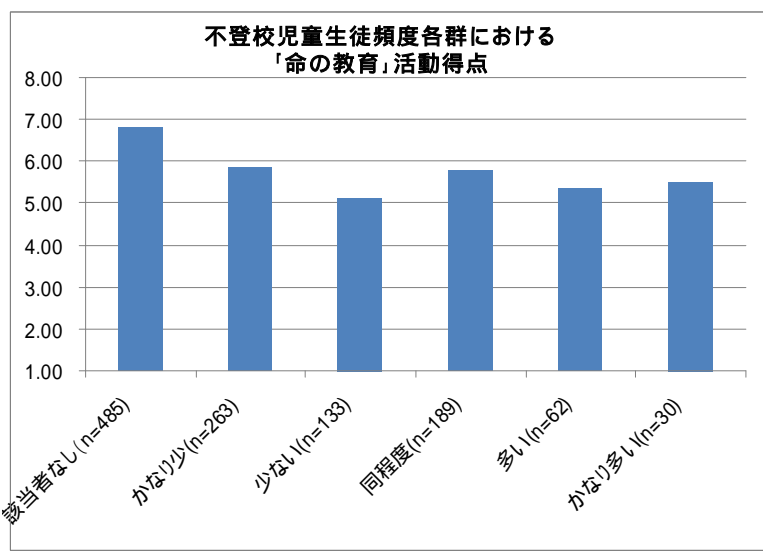
各学校で「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」内の各項目の活動がどの程度行われているかを見るために、各項目の数字の和を「命の教育活動得点(6項目:0点から12点)」「心の健康教育活動得点(9項目:0点から18点)」「個別相談体制得点(5項目:0点から10点)」とした。得点の高い方が、活動がよく行われていることを示している。

次に、不登校、暴力行為、いじめの頻度と増減について、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を比較した(図56から図61)。

なお、分析結果の詳細については、巻末に示す。

表 14 「心の教育」の3つの活動分類

	項目	命の教育 (=.773)	心の健康教育 (=.748)	個別相談体制 (=.680)
命の教育	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	0.731	-0.262	0.010
	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家に手紙を書いたりする活動	0.657	-0.111	0.067
	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.616	0.029	-0.048
	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0.593	0.068	0.065
	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.528	0.185	-0.087
	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.478	0.163	0.058
心の健康教育	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	-0.113	0.629	-0.007
	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	-0.035	0.620	-0.001
	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	-0.009	0.532	0.048
	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	-0.029	0.517	-0.071
	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.100	0.462	0.012
	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	-0.039	0.453	0.099
	9 3つの言い方(攻撃的、非主張的、アサーティブ)を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.355	0.367	-0.110
	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	0.181	0.359	0.026
	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.156	0.359	0.041
個別相談体制	17 いじめに関する実態調査等の実施	0.132	-0.155	0.711
	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.041	-0.017	0.579
	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	-0.308	0.209	0.475
	25 不登校児童生徒への組織的な取組	-0.022	0.094	0.472
	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	0.089	0.084	0.415



不登校児童生徒頻度各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図56である。

「命の教育」については、不登校児童生徒がいない該当なし群において、よく行われていた。

P<.01
 同程度群 < 該当なし群
 P<.05
 同程度群 > 少ない群

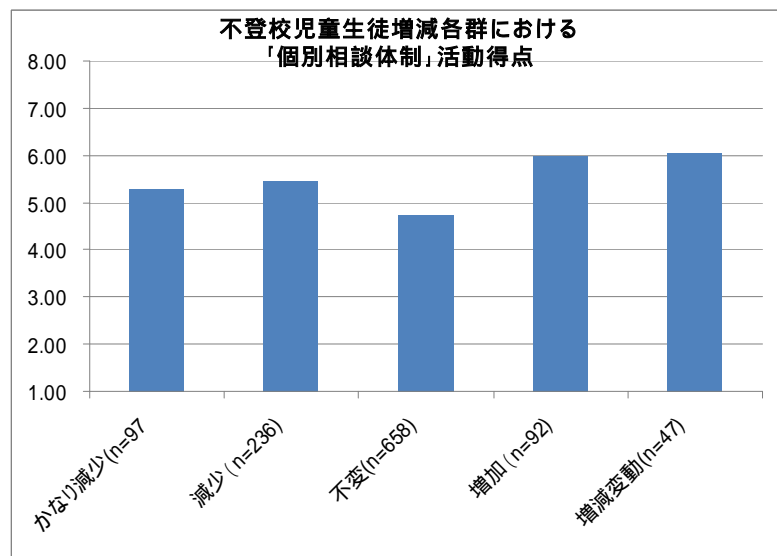
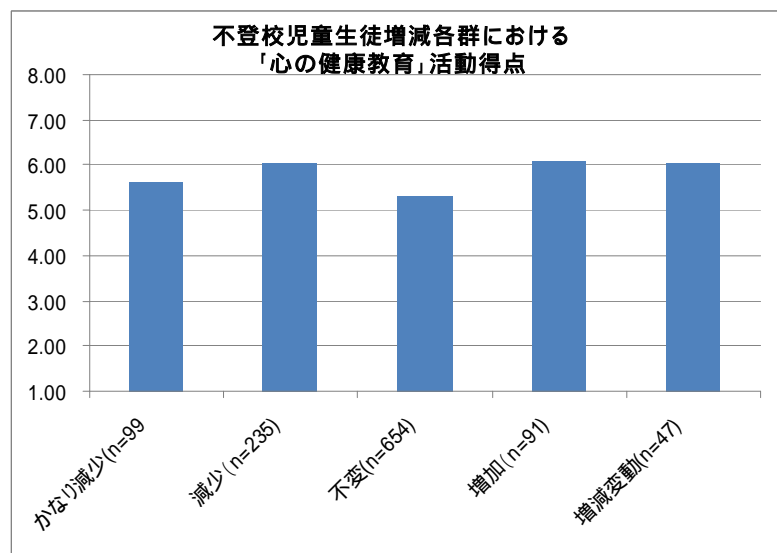
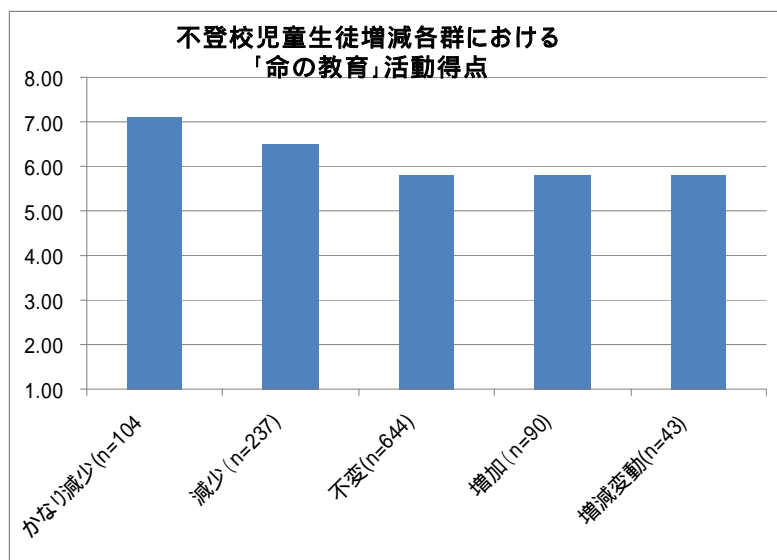
「心の健康教育」については、不登校児童生徒がいない該当なし群において、最も行われていなかった。

P<.01
 同程度群 > 該当なし群

「個別相談体制」については、不登校児童生徒がいない該当なし群において、最も行われていなかった。

P<.01
 同程度群 > 該当なし群
 同程度群 > かなり少群
 P<.05
 同程度群 > 少ない群

図56 不登校児童生徒頻度各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較



不登校児童生徒増減各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図57である。

「命の教育」については、不登校児童生徒が、過去5年間で、かなり減少した・減少したという群において、よく行われていた。

P<.01

不変群 < かなり減少群
不変群 < 減少群

「心の健康教育」については、不登校児童生徒が、変わらない不変群に比べ、減少した群と増加した群において、よく行われていた。

P<.01

不変群 < 減少

P<.05

不変群 < 増加

「個別相談体制」については、不登校児童生徒が、変わらない不変群に比べ、減少した群、増加した群、増減変動群において、よく行われていた。

P<.01

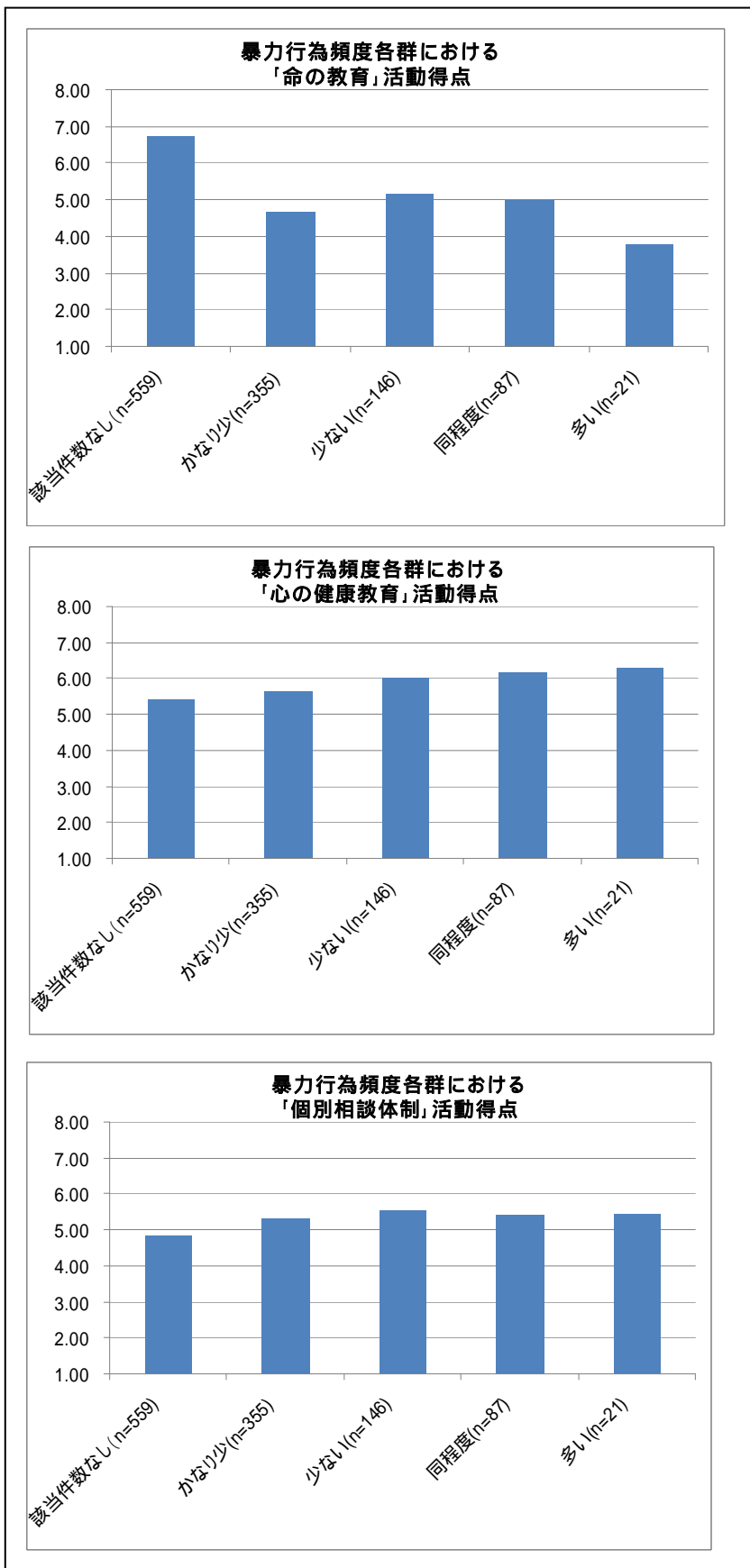
不変群 < 減少

不変群 < 増加

不変群 < 増減変動

図57 不登校児童生徒増減各群における

「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較



暴力行為頻度各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図 58 である。

「命の教育」については、暴力がないと回答した群において、最も行われていた。

$P < .01$

同程度群 < 該当者なし群

$P < .05$

同程度群 > 多い群

「心の健康教育」については、暴力がないと回答した群では、同程度群に比べて、行われていなかった。

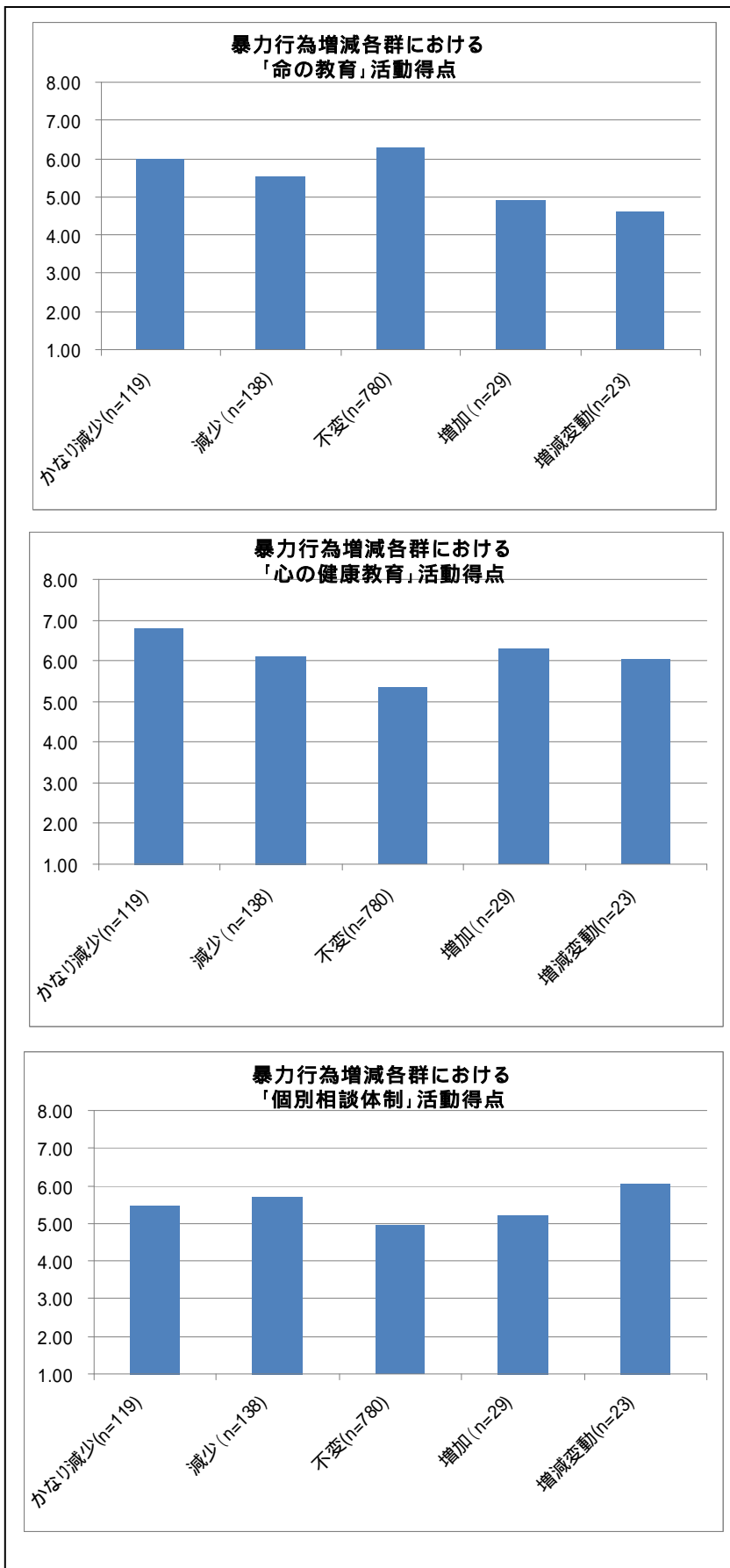
$P < .05$

同程度群 > 該当者なし群

「個別相談体制」については、各群の違いは見られなかった。

図 58 暴力行為頻度各群における

「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較



暴力行為増減各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図59である。

「命の教育」については、暴力の増減が変わらないと回答した群に比べて、減少した群及び増加した群の方が行われていなかった。

$P < .01$

不変群 > 減少群

不変群 > 増加群

「心の健康教育」については、暴力の増減が変わらないと回答した群に比べて、かなり減少した群と減少した群において、よく行われていた。

$P < .01$

不変群 < かなり減少群

不変群 < 減少群

「個別相談体制」については、暴力の増減が変わらないと回答した群に比べて、減少した群、かなり減少した群、増減変動群において、よく行われていた。

$P < .01$

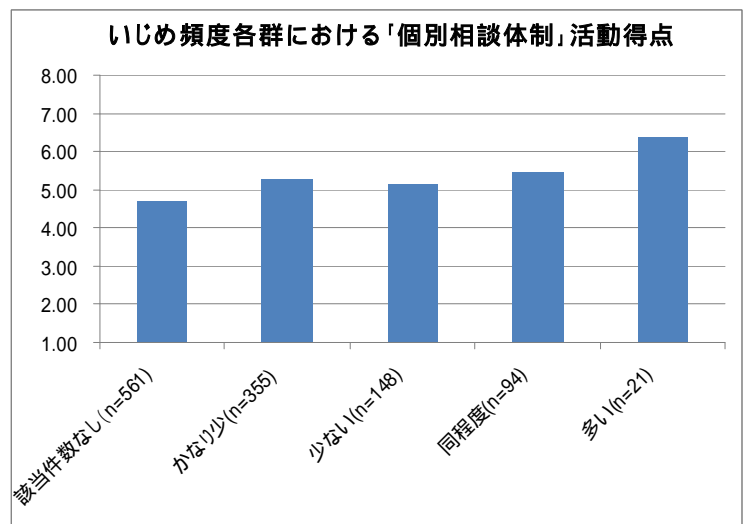
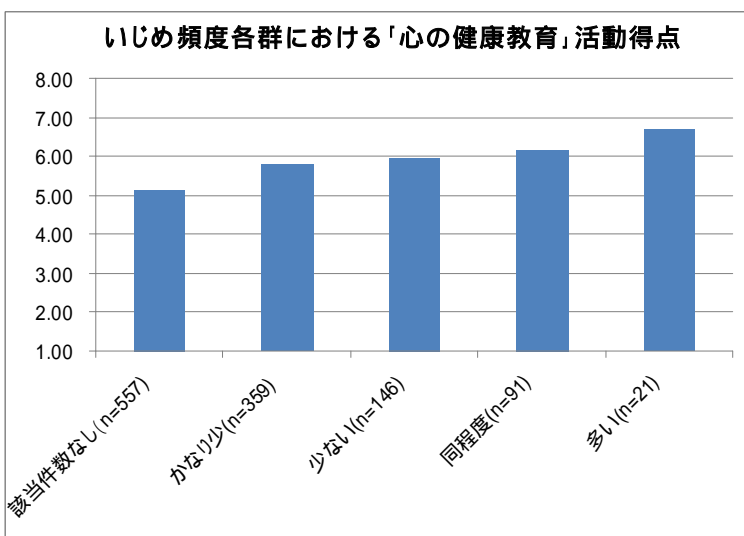
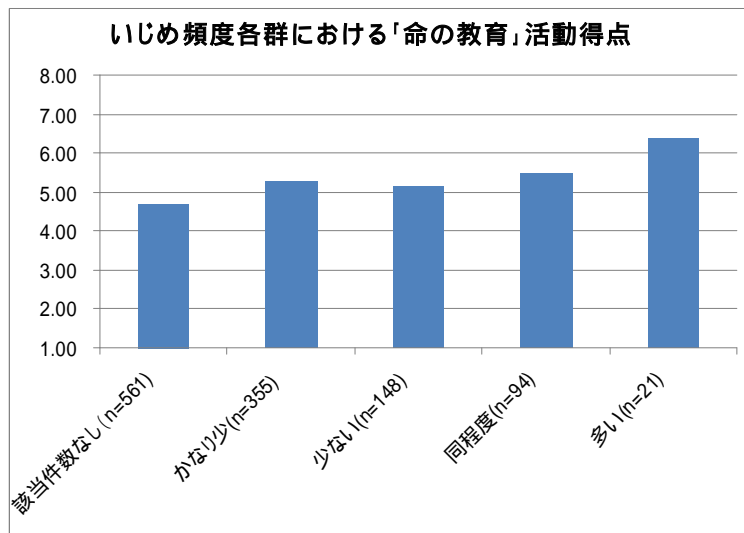
不変群 < 減少群

$P < .05$

不変群 < かなり減少群

不変群 < 増減変動群

図59 暴力行為増減各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較



いじめ頻度各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図60である。

「命の教育」については、同程度群に比べて、いじめがないと回答した群、かなり少ない群、少ない群において、行われていなかった。

P<.01

同程度群 > 該当者なし群

同程度群 > かなり少群

P<.05

同程度群 > 少ない群

「心の健康教育」については、いじめがないと回答した群において、最も行われていなかった。

P<.01

同程度群 > 該当者なし群

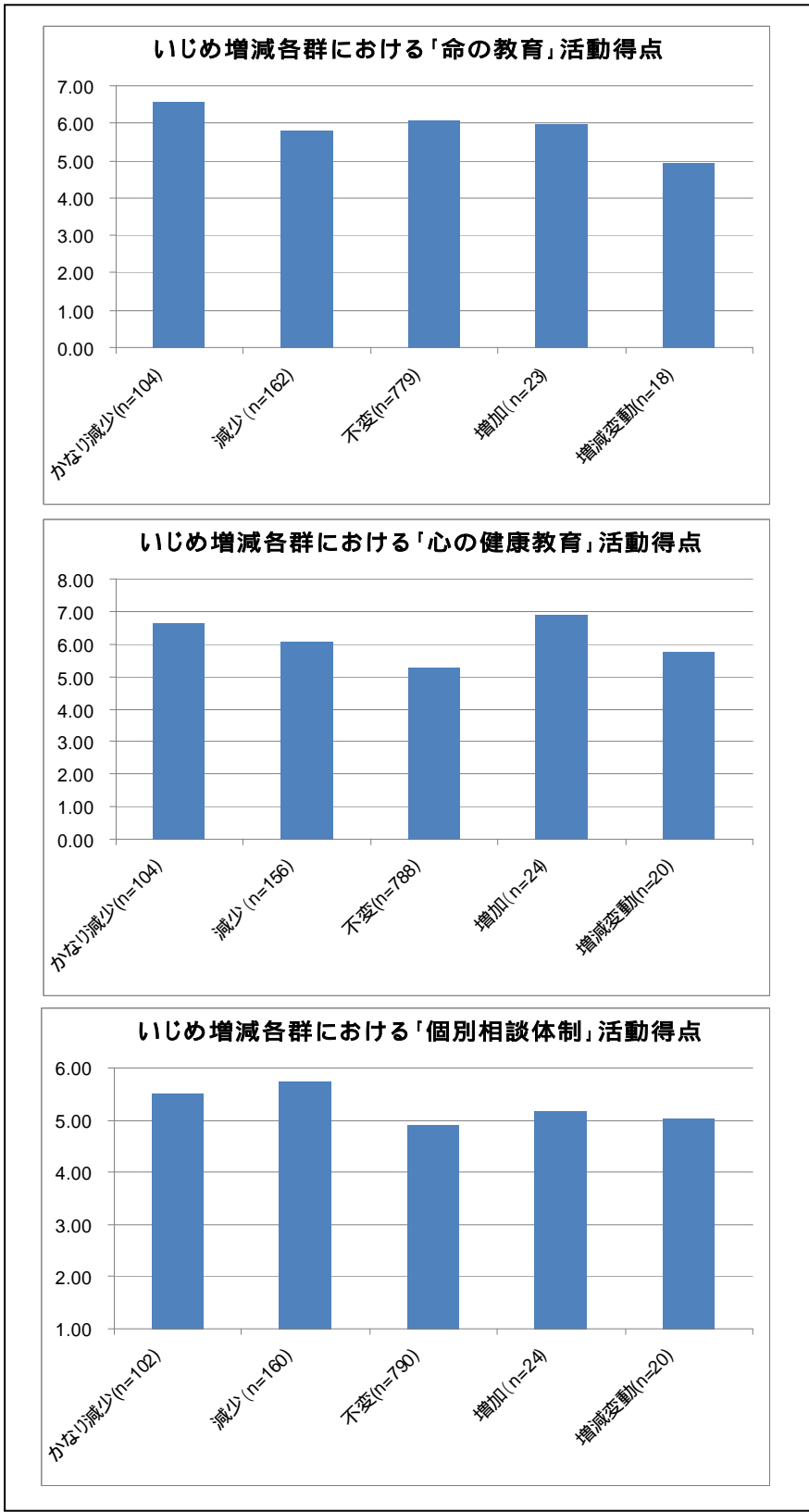
「個別相談体制」については、同程度群に比べて、いじめがないと回答した群で、行われていなかった。

P<.01

同程度群 < 該当者なし群

図60 いじめ頻度各群における

「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較



いじめ増減各群における、「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点を示したものが、図61である。

「命の教育」については、いじめの増減の各群との違いは見られなかった。

「心の健康教育」については、いじめが変わらないと回答した群に比べ、いじめがかなり減少した群、減少した群、増加した群において、行われていた。

P<.01
 不変群 < かなり減少群
 不変群 < 減少群
 P<.05
 不変群 < 増加群

「個別相談体制」については、いじめがかなり減少した群、減少した群において、よく行われていた。

P<.01
 不変群 < 減少群
 P<.05
 不変群 < かなり減少群

図61 いじめ増減各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」活動得点の比較

(11) 「心の教育」として特に効果的であるとする内容

「心の教育」として特に効果的であるとする内容を示したのが表15(小学校、中学校、高等学校)、表16(特別支援学校)である。

表15 小学校、中学校、高等学校における「心の教育」として特に効果的と考える活動

	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等 学校
1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	181	106	34	8
2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	38	40	32	20
3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	53	64	7	5
4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	76	46	8	7
5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	93	102	43	45
6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	10	5		
7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	22	38	31	13
8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	20	15	9	1
9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	55	77	16	18
10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	258	222	68	26
11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	5	9	11	23
12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	9	13	4	20
13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	41	30	24	19
14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	8	8	5	1
15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	18	36	10	13
16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	4	9	3	2
17 いじめに関する実態調査等の実施	27	44	25	15
18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	56	74	32	5
19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	3	4	4	1
20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	3	11	7	13
21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	35	53	91	56
22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	17	29	19	7
23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	4	10	3	9
24 校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	4	8	16	20
25 不登校児童生徒への組織的な取組	22	40	23	19
26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	50	61	26	45

* 回答者は全26項目の活動から3つを選択した。また、表中の、などは順位を示す。

表16 特別支援学校における「心の教育」として特に効果的と考える活動

	小学部	中学部	高等部
1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	6	6	1
2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	6	1	2
3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	2		1
4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	9	7	8
5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	4	5	4
6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動		1	1
7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	1	1	
8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	1	3	
9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	2	2	5
10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	12	10	6
11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動			1
12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	3	3	
13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	12	11	9
14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動			
15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	5	4	5
16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施		1	
17 いじめに関する実態調査等の実施		1	
18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施		1	
19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施			
20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施			
21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	4	4	4
22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	1	1	
23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	1	1	2
24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施			
25 不登校児童生徒への組織的な取組	1	2	3
26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	8	9	11

* 回答者は全26項目の活動から3つを選択した。また、表中の 、 などは順位を示す。

表15を見ると、小学校では、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」が特に多い。中学校で2位、高等学校でも4位と上位を占めている。続いて「1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動」が多く、これは中学校でも4位となっている。次に多いのは、「5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動」で、これは中学校で3位、高等学校で2位と上位を占めている。

中学校と高等学校では、「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」が最も多い。その他では、中学校で「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」「18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施」が多く、高等学校で「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」が多い。

表16を見ると、小学部、中学部、高等部の全体では、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」が共通して上位を占めている。その他の活動で上位のものは、小学部と高等部で「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」、小学部と中学部で「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」、中学部と高等部で「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」となっている。

(12) 「心の教育」として今後行いたいと考える内容

「心の教育」として今後行いたいと考える内容を示したのが表17（小学校、中学校、高等学校）、表18（特別支援学校）である。（全26項目の活動から3つを選択）

表17を見ると、全体で共通して上位の活動は、「9 自己の気持ちや考えを表現する活動」「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」である。また「12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」は、小学校高学年、中学校、高等学校で上位となっており、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」は、小学校低学年、高等学校で上位となっている。その他、「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」は小学校低学年で、「15 自分の性格などについて理解を深める活動」は小学校高学年で、「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」は中学校で、それぞれ上位となっている。

表18を見ると、全体で共通して上位の活動は、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」である。また、小学部、中学部では、「8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動」や「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」が上位となっている。高等部では、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」が上位となっている。

表17 小学校、中学校、高等学校における「心の教育」として今後行いたいと考える活動

	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等 学校
1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	33	19	18	10
2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	90	78	24	19
3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	21	24	15	5
4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	12	5	2	1
5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	39	36	8	7
6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	14	13		
7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	14	19	9	10
8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	33	17	5	1
9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	102	89	34	25
10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	49	46	16	20
11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	34	43	12	17
12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	68	87	49	32
13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	72	72	26	26
14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	8	8	4	5
15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	66	81	25	18
16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	9	16	12	5
17 いじめに関する実態調査等の実施	14	12	5	17
18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	37	45	18	22
19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	17	31	25	10
20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	25	41	42	23
21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	69	72	21	15
22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	36	45	18	17
23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	81	91	64	24
24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	74	84	64	38
25 不登校児童生徒への組織的な取組	7	7	12	18
26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	32	27	10	23

* 回答者は全26項目の活動から3つを選択した。また、表中の、などは順位を示す。

表18 特別支援学校における「心の教育」として今後行いたいと考える活動

	小学部	中学部	高等部
1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	5	1	4
2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	3	2	2
3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	3	2	
4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	6	2	
5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	4	3	4
6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	1	2	
7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	2	1	
8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	7	5	
9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	2	3	3
10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	7	9	2
11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	2	1	2
12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	4	3	2
13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	12	11	6
14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動			
15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	1	5	4
16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施			
17 いじめに関する実態調査等の実施		1	
18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	1		1
19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施		1	
20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	1	1	3
21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	1	4	3
22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	1	2	4
23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	1	2	5
24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	2		5
25 不登校児童生徒への組織的な取組			2
26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	3	2	2

* 回答者は全26項目の活動から3つを選択した。また、表中の 、 などは順位を示す。

(13) 「心の教育」に関する使用出版物等

表19 小学校、中学校、高等学校における「心の教育」で特によく使用する出版物等

出版物等	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等 学校	特別支 援学校 小学部	特別支 援学校 中学部	特別支 援学校 高等部
心の教育授業実践研究 第1号～第7号	66	68	32	14		2	
学校における心の危機対応 実践ハンドブック	100	120	76	37	1	5	2
学校のストレスマネジメント 研究	56	65	38	15	1	3	1
学校・家庭・地域における 暴力防止プログラム研究	31	30	22	9			
「命の大切さ」を実感させる 教育への提言	105	122	74	26	1	2	1
「命の大切さを実感させる教育 プログラム」実践事例集 ～	145	161	79	23	2	3	1
心のノート	355	377	178	15	8	10	7

「心の教育」で特によく使用する出版物等について、当センターで作成したものを中心に調査した結果が、表19である。

小学校、中学校では、『心のノート』の使用が多い。続いて、『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集（～）』や『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』、『学校における心の危機対応実践ハンドブック』がよく使用されている。

4 「心の教育」に関する調査の考察 調査結果から見てくるもの

(1) 各発達段階と「心の教育」の取組内容との関連について

ア 小学校、中学校、高等学校における実施状況の結果から

調査結果では、まず各活動について、小学校、中学校、高等学校の各発達段階で比較した図(図4から図29)を示し、その実施状況の特徴から、「低年齢実施型」「高年齢実施型」「中間型」「その他」の4タイプに分類した。

(ア) 「低年齢実施型」の特徴

「低年齢実施型」は、年齢が低いほど多く実施している傾向にある活動であるが、その中でもより多く実施されている活動は、「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」である。小学校で「かなりやっている」と回答した割合は、低学年、高学年とも60%以上で、「少しやっている」と合わせると90%以上になっている。これは、多くの小学校で動植物の飼育をしており、児童生徒が直接関わる機会が多いことから、小学校における活動の特徴であるといえる。

次に多いものとして、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」があり、低学年、高学年とも「かなりやっている」と回答した割合は50%程度、「少しやっている」と合わせると90%以上になっている。この活動は、中学校でも実施している割合が高い。友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題を行うことなどに関する活動は、主に道徳の時間などを中心に実施されており、そのことが小学校、中学校の実施割合の高さに影響していると考えられる。これらの傾向は、「1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動」についても同様であり、特に小学校低学年の実施割合が高い。

一方、「6 動植物などの死について、話し合ったり考えたりする活動」や「8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動」に関する実施割合は、前述の活動に比べ、全体的に低くなっている。小学校で「かなりやっている」または「少しやっている」と回答した割合は、低学年で70%から80%、高学年で70%と高いが、その中でも「かなりやっている」と回答した割合は20%以下である。小学校では、動植物の飼育や観察を中心に、命を育む活動に力を入れており、死をテーマにした活動については、発達段階の観点から抑え気味になっていると考えられる。

(イ) 「高年齢実施型」の特徴

「高年齢実施型」は、年齢が高いほど多く実施している傾向にある活動である。これは「低年齢実施型」に比べ、全体的に実施割合が高いとはいえない。

その中でも比較的多く実施されている活動は、「20 メンタルヘルスに関する授業等の実施」であり、「かなりやっている」と「少しやっている」を合わせると、高等学校の50%、中学校及び小学校高学年の40%が実施している。

その他の活動として「12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」があるが、「かなりやっている」と「少しやっている」を合わせると、高等学校、中学校ともに約40%の実施割合である。また、「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」についても同様である。

以上のことから、メンタルヘルスやストレスマネジメントなど、「心の教育」に関する分野の中で、より専門的な知識や技術が必要な内容については、高等学校を中心に実施されていると考えられる。

(ウ) 「中間型」の特徴

「中間型」は、中学校や小学校高学年を中心に実施されている活動である。他の学校・学年と比較して、中学校で最も多く実施されている活動と、小学校高学年で最も多く実施されている活動とに分類した。

中学校で多く実施されている活動では、まず「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」があり、「かなりやっている」と回答した割合は70%、「少しやっている」と合わせた割合は90%を超えている。高等学校においても、80%近くが実施している。

その他の活動では、「25 不登校児童生徒への組織的な取組」や「17 いじめに関する実態調査等の実施」があるが、「かなりやっている」と回答した割合は、どちらも約50%で、小学校高学年がそれに続き約40%となっている。

一方、「19 自殺に関する現状等に関する授業等の実施」や「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」、「16 暴力行為の現状等に関する授業等の実施」は、全体的に実施割合が低い。特に、自殺をテーマにした活動や命の誕生に関する講話を聞く活動は低くなっている。

また、小学校高学年で多く実施されている活動では、「3 自分の成長を振り返る活動」と「9 自己の気持ちや考えを表現する活動」があるが、前者の活動が、より多くの学校で実施されている。

以上のことから、次のような点がうかがえる。

まず、「17 いじめに関する実態調査等の実施」や「25 不登校児童生徒への組織的な取組」については、全学校・学年ともに多く行われており、具体的な取組につながっていると考えられる。その一方で、「18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施」は、小学校、中学校が中心となっており、高等学校では、教育相談など個別に話をする機会が重視されている。中学校では、いじめに関する調査や授業と、個別に話をする機会の両者が重視されており、発達段階に応じた対応になっていると考えることができる。また、「11 インターネットの利便性等について学ぶ活動」についても、小学校高学年から高等学校にかけて実施割合が高くなっており、同様のことがうかがえる。

次に、「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」や、自殺や暴力行為の未然防止等に関する授業等の実施については、実施割合が全体的に低い。命の誕生については、教員が学校の授業の中で扱うことがあるため、専門家による講話を実施する必要性が低いと考えられる。自殺の防止については、身近な動植物の命や死をテーマにした活動と異なり、児童生徒の実態把握など指導上の配慮が特に必要なため実施につながらないと思われる。暴力行為の防止については、件数の変化で「変わらない」「減少した」と回答した学校が多いことから、指導の必要性を感じにくい面があると思われる。また、具体的な指導方法が明確でなく、実施が難しいことが考えられる。

また、「7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記などから命や死について考える活動」や「14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動」は、小学校、中学校を中心に多く実施されている。これらのことから、小学校と中学校では、防災教育の中に、命や死、心のケアなどの視点を積極的に取り入れていると考えられる。

(エ) 「その他」の特徴

「その他」は、実施状況が各発達段階において差異の少ない活動を集めたものである。

「5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動」や「26 チームで対応できる教育相談の体制づくり」、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」は、「かなりやっている」と「少しやっている」を合わせた割合が総じて高い。

一方、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」の割合は、総じて低い。

高齢者や保育園児などとの交流については、「トライやる・ウィーク」など、学校の教育活動において、積極的に取り組まれていることが多いと考えられる。また、教育相談に関する意識が高まり、各学校における組織づくりが進んできたため、児童生徒の心のケア等にチームで対応できるようになっていると思われる。

スクールカウンセラー等の活用については、教育相談室などにおけるカウンセリングや教職員の研修会の講師などの活動が中心であるため、担任と共同して行う活動にはつながっていないのではないかとと思われる。

イ 小学校、中学校、高等学校における実施状況（上位、下位の各5位）の結果から

前項アの内容を踏まえて、実施状況の上位及び下位の各5位を見ると、以下のような特徴が挙げられる。

上位5位のグループでは、小学校と中学校及び高等学校との間で、積極的に取り組まれている活動内容が異なっている。小学校で挙げられている活動は、児童が主になって行う活動が中心である。動植物の飼育や観察、高齢者や保育園児と触れ合う活動、他者理解や他者と関わる活動など、児童の体験を重視した活動が上位を占めている。これに対して、中学校と高等学校では、生徒と話をする機会の設定や教育相談の体制づくり、いじめに関する実態調査など、生徒を支援するために教職員が主になって行う活動が中心となっている。小学校と同様、高齢者や保育園児などと触れ合う活動もあるが、上位の活動の多くは生徒個人への支援に焦点をあてた活動である。小学校と中学校及び高等学校でそれぞれ発達段階に応じた対応となっている。

下位5位のグループでは、各学校・学年全体をとおして、スクールカウンセラーや「心の教育」に関する専門家などの活用に関する内容が多い。スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラーについては、前述のとおり、教育相談室でのカウンセリングや教職員の研修会の講師などの活動が中心であるため下位となっていると考えられるが、カウンセラーを含めた「心の教育」に関する専門家の活用は、今後、児童生徒に必要とされる取組の一要素となるのではないかと考えられる。また、ストレスへの適切な対処法を学ぶ活動やメンタルヘルスに関する授業等の実施などが挙げられており、「心の教育」に関する専門家の活用とあわせて、今後取り組むべき課題の一つであると考えられる。

ウ 特別支援学校における実施状況の結果から

特別支援学校における活動の特徴の一つは、「4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動」や「13 社会性を体験的に学ぶ活動」の実施割合が、小学部、中学部、高等部ともに高いということである。前項アの(ア)では、小学校で動植物に関わる活動が多いことを挙げたが、特別支援学校では、中学部や高等部の生徒も関わる機会が多く設定されているのではないかと考えられる。また、社会性を体験的に学ぶ活動については、前項アの(イ)において小学校、中学校、高等学校の全体をとおして実施されている割合が高いことを示

したが、高等学校では小学校、中学校に比べて実施している割合が低くなっているのに対して、特別支援学校では、高等部での実施割合が高くなっている。

他の特徴としては、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」の割合が、小学部から高等部へ年齢が上がるにつれ、高くなっていることである。前項アの(ア)では、高等学校が小学校や中学校に比べ実施割合が低いことを示したが、特別支援学校では、高等部での実施割合が80%と他の部に比べて高くなっている。

以上のことから、特別支援学校では、特に児童生徒の個に応じた指導に焦点をあてた活動が行われていると考えられる。また、各部ともに、動植物の飼育や観察、ソーシャルスキルトレーニングなど、児童生徒の体験活動が重視されているといえる。

各部における実施状況の下位5位の状況では、「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」の実施割合が低かった。講演など集団を対象とする活動をさらに工夫して実施していくことが、今後の「心の教育」の展開において、必要とされる要素の一つではないかと思われる。その際、児童生徒の各発達段階や必要な支援に応じた専門家の活用という視点が大切であり、今後の課題ではないかと考えられる。

(2) 不登校、暴力行為、いじめの実態と「心の教育」の取組内容との関連について

ア 不登校児童生徒との関連

不登校児童生徒頻度各群及び増減各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点の結果から、以下の点が考えられる。

まず、不登校児童生徒がいないと回答した群で「命の教育」の活動がよく行われていたという結果から、不登校児童生徒に対する取組については、特に「命の教育」の活動と関係があると思われる。また、過去5年間で、減少したと回答した群の得点が高かったことから、不登校児童生徒の減少と「命の教育」の活動とが関係していることがわかる。しかし、この結果だけでは、両者の因果関係まではいえないことから、今後両者における具体的な関係について検証することが必要である。

「心の健康教育」と「個別相談体制」の活動において、不登校児童生徒がいないと回答した群で最も行われていなかった理由の一つとして、「25 不登校児童生徒への組織的な取組」などの活動の必要性が低かったことが考えられる。

一方、過去5年間の不登校児童生徒の増減では、変わらないと回答した群に比べて、減少した群と増加した群が「心の健康教育」と「個別相談体制」の活動をよく行っていることから、不登校児童生徒の増減と両者の活動とが関係しているといえる。しかし、因果関係については、「命の教育」の活動と同様、今後の検証が必要である。

以上、不登校児童生徒の頻度や増減については、主に「命の教育」の活動との関係が認められるという点が特徴である。

イ 暴力行為との関連

暴力行為頻度各群及び増減各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の活動得点の結果から、以下の点が考えられる。

まず、暴力行為がないと回答した群で「命の教育」の活動がよく行われていたという結果から、暴力行為に対する取組については、「命の教育」の活動と関係があると思われる。しかし、過去5年間の増減では、変わらないと回答した群に比べて、減少及び増加の群の方が「命の教育」の活動が行われていないことから、増減との関係は認められない。

これに対して、「心の健康教育」の活動については、過去5年間の増減において、変わらないと回答した群に比べて、かなり減少した群と減少した群でよく行われているという結果から、暴力行為の増減と関係があると考えることができる。しかし、両者の因果関係については、前項アと同様、今後の検証が必要である。

「個別相談体制」の活動については、過去5年間の増減において、変わらないと回答した群に比べて、かなり減少した群、減少した群、増減ともにあった群でよく行われているという結果から、暴力行為の増減と関係があると考えることができる。しかし、両者の因果関係については、今後の検証が必要である。

以上、暴力行為の頻度や増減については、主に、暴力行為の減少と「心の健康教育」の活動との関係が認められるという点が特徴である。

ウ いじめとの関連

いじめ頻度各群及び増減各群における「命の教育」「心の健康教育」「個別相談体制」の

活動得点の結果から、以下の点が考えられる。

まず、「命の教育」の活動については、頻度各群の比較において、全国平均と同程度であると回答した群に比べて、いじめがないと回答した群の方が行われていない点や、増減各群の比較において違いが見られなかった点から、いじめとの関係は認められない。

次に「心の健康教育」の活動については、頻度各群の比較では、全国平均と同程度であると回答した群に比べて、いじめがないと回答した群の方が行われていない結果が出ているが、増減各群との比較において、変わらないと回答した群に比べて、減少、増加の両群で行われていることから、いじめの増減と関係があると考えることができる。

さらに「個別相談体制」の活動については、「心の健康教育」の活動と同様、頻度各群の比較では、全国平均と同程度であると回答した群に比べて、いじめがないと回答した群の方が行われていない結果が出ている。しかし、増減各群との比較においては、変わらないと回答した群に比べて、かなり減少した群と減少した群で行われているという結果が出ており、特にいじめの減少と関係があると考えることができる。

以上、いじめの頻度や増減については、主に、いじめの減少と「個別相談体制」の活動との関係が認められるという点が特徴である。

(3) 今後望まれている「心の教育」の内容について

調査結果3の(11)と(12)で示した、「心の教育」として特に効果的と考える活動と今後行いたいと考える活動の上位3位を並べたのが表20である。

表20 「心の教育」として効果的及び今後行いたいと考える活動

各学校 ・学年	効果的と考える活動			今後行いたいと考える活動			
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	
小学校 低学年	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	9 自己の気持ちや考えを表現する活動	2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動	23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施	
小学校 高学年	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞くなどの活動	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施	9 自己の気持ちや考えを表現する活動	12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	
中学校	21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施	24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施	12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	
高等学校	21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	26 チームで対応できる教育相談の体制づくり	24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施	12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	13 社会性を体験的に学ぶ活動	
特別支援学校	小学部	13 社会性を体験的に学ぶ活動	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	13 社会性を体験的に学ぶ活動	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動
	中学部	13 社会性を体験的に学ぶ活動	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	26 チームで対応できる教育相談の体制づくり	13 社会性を体験的に学ぶ活動	10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動 15 自分の性格などについて理解を深める活動
	高等部	26 チームで対応できる教育相談の体制づくり	13 社会性を体験的に学ぶ活動	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	13 社会性を体験的に学ぶ活動	23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施	24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施

* 表中の各活動の表記は、3の(9)で示した表記である。

小学校では、効果的と考える活動で、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」が低学年、高学年ともに1位となっていることから、友達などとの適切な関わり方を重視していることがわかる。これと同様に、アサーション・トレーニングなど他者と関わる具体的な対処法の一つである「9 自己の気持ちや考えを表現する活動」が、今後行いたいと考える活動の上位となっており、望まれている活動の一つであるといえる。

その他、小学校では、「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」「12 スト

レスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」「2 医師などによる命の誕生に関する講話を聞く活動」と、主に専門家を活用した活動が望まれている。自分の誕生について家族から話を聞いたり、高齢者や保育園児と触れ合ったりする活動については、教職員が中心となって取り組むことができ、効果的であると考えられているが、今後さらに「心の教育」を充実させるためには、専門家の活用が必要であると、とらえられているのではないかと思われる。

中学校と高等学校における効果的及び今後行いたいと考える活動は、同じような傾向にある。「23 カウンセラーが担任と共同して行う実習等の実施」や「24 学校外の専門家による児童生徒への講演の実施」が今後必要とされている点は、小学校とも共通している。効果的と考える活動では、中学校、高等学校とも「21 児童生徒とじっくりと話をする機会の設定」が挙げられていることから、発達段階に応じて、生徒個人への支援を重視していることがわかる。専門家の活用という点では小学校、中学校、高等学校とも同じであるが、高等学校では個人の精神的な成長を一層促すなど、発達段階に応じた内容の工夫が必要ではないかと思われる。

また、小学校高学年から高等学校にかけて、「12 ストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動」が、今後行いたいと考える活動に挙げられている。専門家の活用とあわせて、「心の教育」の充実に向けて、今後取り組むべき内容の一つであるといえる。

さらに、高等学校では、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」が挙げられている。この活動は、図28で示したとおり、約6割の高等学校で行われているが、小学校や中学校の実施割合ほど高くはない。高等学校を卒業した生徒には様々な進路があり、社会とのつながりがより必要となることから、ソーシャルスキルトレーニングなど具体的な活動が重視されているのではないかと思われる。

特別支援学校では、小学部、中学部、高等部とも、効果的と考える活動と今後行いたいと考える活動において、共通した部分が多い。

今後行いたいと考える活動として、「13 社会性を体験的に学ぶ活動」が、共通して1位となっている。これは、前述のとおり、特別支援学校における活動の多くが、児童生徒の個に応じた指導に焦点をあてていると考えられることから、ソーシャルスキルトレーニングなど具体的な活動が必要とされているのではないかと思われる。

また、小学部と中学部では、「10 他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動」が、今後行いたいと考える活動に挙げられている。この活動は、図39で示したとおり、高等部の実施割合は8割であったが、中学部は6割、小学部は4割であった。小学部、中学部を中心に、今後取り組むべき内容の一つとして、友達のいいところをさがしたり、協力して課題に取り組んだりする活動を、工夫して取り入れていくことが必要であると考えられる。

これに加えて、小学部と中学部では、「8 人や動植物の死をテーマにした絵本などを活用する活動」が挙げられている。動植物の飼育や観察は、各部とも実施割合が高く、効果的と考える活動として、小学部と高等部では3位、中学部では4位となっている。この活動と関連して、動植物の生や死をテーマとした取組が、今後特に必要だと考えられているのではないかと思われる。

さらに高等部では、今後行いたいと考える活動として「心の教育」に関する専門家を活

用することが、2位と3位になっている。中学部では、「15 自分の性格などについて理解を深める活動」が3位になっており、発達段階に応じて自分自身に関する理解を深める活動など、より専門的な内容についての活動が、今後中学部や高等部において求められているのではないかとと思われる。

引用文献

- 1) 教育相談等に関する調査研究協力者会議『児童生徒の教育相談の充実について』, 2007
- 2) 文部科学省「生徒指導提要」, 2010
- 3) 兵庫県教育委員会「インターネット及び携帯電話の利用状況等に関するアンケート調査」, 2007
- 4) 厚生労働省「児童虐待相談対応件数等及び児童虐待要保護事例の検証結果」, 2010
- 5) 文部科学省 前掲書
- 6) 教育相談等に関する調査研究協力者会議 前掲書
- 7) 文部科学省「平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」, 2010
- 8) 兵庫県教育委員会『平成22年度(2010)指導の重点』, 2010
- 9) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『心の教育授業実践研究第1号～第7号』, 1999～2005
- 10) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校における心の危機対応実践ハンドブック』, 2002
- 11) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレスマネジメント研究』, 2004
- 12) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校・家庭・地域における暴力防止プログラム研究』, 2006
- 13) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』, 2006
- 14) 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集 ～ 』, 2007, 2008, 2010

参考資料1 各学校・学年における「心の教育」に関する各活動の実施状況
表 小学校低学年における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	1.70	0.48
2	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	1.54	0.59
3	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	1.52	0.54
4	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	1.49	0.54
5	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.25	0.73
6	17 いじめに関する実態調査等の実施	1.14	0.73
7	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	1.12	0.66
8	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	1.08	0.80
9	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	1.04	0.72
10	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	0.98	0.65
11	25 不登校児童生徒への組織的な取組	0.94	0.85
12	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.92	0.57
13	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.90	0.66
14	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.77	0.79
15	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.75	0.66
16	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.72	0.71
17	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0.61	0.68
18	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.57	0.62
19	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.52	0.63
20	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどをを用い学ぶ活動	0.43	0.60
21	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.38	0.64
22	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.30	0.52
23	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.25	0.49
24	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.19	0.42
25	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.13	0.39
26	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.12	0.40

表 小学校高学年における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	1.57	0.56
2	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	1.45	0.56
3	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	1.37	0.65
4	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	1.36	0.68
5	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.29	0.73
6	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	1.20	0.62
7	17 いじめに関する実態調査等の実施	1.19	0.69
8	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	1.19	0.64
9	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	1.19	0.63
10	25 不登校児童生徒への組織的な取組	1.07	0.86
11	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	0.96	0.64
12	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	0.91	0.62
13	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.89	0.68
14	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.86	0.72
15	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.84	0.78
16	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.81	0.64
17	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.80	0.58
18	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.75	0.64
19	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0.70	0.72
20	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.58	0.63
21	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.50	0.62
22	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.47	0.56
23	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.43	0.68
24	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.37	0.55
25	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.15	0.42
26	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.14	0.41

表 中学校における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	1.65	0.59
2	25 不登校児童生徒への組織的な取組	1.46	0.69
3	17 いじめに関する実態調査等の実施	1.43	0.63
4	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	1.34	0.66
5	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.33	0.71
6	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	1.28	0.62
7	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	1.26	0.63
8	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	1.19	0.61
9	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	1.10	0.73
10	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	1.10	0.64
11	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	1.05	0.67
12	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.97	0.70
13	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0.94	0.64
14	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.94	0.67
15	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.78	0.83
16	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.70	0.64
17	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.70	0.67
18	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	0.67	0.75
19	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.66	0.66
20	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.60	0.66
21	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.60	0.61
22	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.44	0.58
23	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.44	0.60
24	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.44	0.66
25	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.33	0.47
26	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.25	0.54

表 高等学校における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	1.50	0.62
2	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.19	0.72
3	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	1.17	0.80
4	25 不登校児童生徒への組織的な取組	0.96	0.74
5	17 いじめに関する実態調査等の実施	0.91	0.64
6	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.83	0.74
7	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	0.82	0.80
8	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	0.79	0.73
9	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.65	0.69
10	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0.60	0.68
11	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	0.58	0.78
12	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.57	0.74
13	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.52	0.69
14	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.52	0.71
15	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.51	0.61
16	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	0.47	0.63
17	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.43	0.62
18	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.42	0.59
19	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.42	0.64
20	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.41	0.60
21	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.40	0.61
22	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0.38	0.61
23	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.38	0.57
24	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.27	0.56
25	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.20	0.54
26	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.18	0.47

表 特別支援学校 小学部における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	1.20	0.71
2	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.20	0.87
3	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	1.08	0.49
4	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	0.52	0.65
5	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	0.52	0.71
6	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0.52	0.71
7	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.48	0.65
8	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0.40	0.58
9	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.40	0.65
10	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.40	0.65
11	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.40	0.58
12	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0.40	0.76
13	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.28	0.61
14	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.28	0.61
15	25 不登校児童生徒への組織的な取組	0.28	0.61
16	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.24	0.52
17	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.20	0.50
18	17 いじめに関する実態調査等の実施	0.16	0.47
19	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.16	0.55
20	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.12	0.33
21	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどを用い学ぶ活動	0.08	0.28
22	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.04	0.20
23	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.04	0.20
24	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.04	0.20
25	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.04	0.20
26	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.00	0.00

表 特別支援学校 中学部における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	1.15	0.46
2	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	1.04	0.52
3	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	0.96	0.94
4	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0.74	0.71
5	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.56	0.64
6	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	0.48	0.51
7	25 不登校児童生徒への組織的な取組	0.48	0.70
8	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	0.44	0.58
9	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.44	0.58
10	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0.41	0.57
11	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0.37	0.69
12	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.37	0.49
13	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.30	0.47
14	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.26	0.45
15	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.26	0.53
16	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.26	0.45
17	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.26	0.45
18	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.26	0.45
19	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどをを用い学ぶ活動	0.22	0.42
20	17 いじめに関する実態調査等の実施	0.19	0.56
21	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.15	0.53
22	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.11	0.42
23	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.07	0.27
24	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.07	0.27
25	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.04	0.19
26	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.00	0.00

表 特別支援学校 高等部における「心の教育」の活動実施状況（1位から26位）

順位	活動	平均値	標準偏差
1	26 児童生徒を支援するために、チームで対応できる教育相談の体制づくり	1.36	0.79
2	13 その場に応じたあいさつなどの練習をするソーシャルスキルトレーニングなど、社会性を体験的に学ぶ活動	1.32	0.65
3	4 動植物の飼育をしたり、観察をしたりする活動	1.09	0.81
4	10 友達の「いいとこさがし」や友達と協力して課題に取り組む構成的グループ・エンカウンターなど、他者を理解したり、適切に他者と関わったりする活動	0.95	0.65
5	21 教育相談週間など、児童生徒とじっくりと話をする機会の設定	0.86	0.83
6	15 自分の性格や行動のパターンなどについて理解を深める活動	0.82	0.66
7	25 不登校児童生徒への組織的な取組	0.77	0.81
8	11 インターネットや携帯電話の利便性や危険性について、模擬体験やロールプレイングなどをを用い学ぶ活動	0.77	0.69
9	5 高齢者や保育園児などと触れ合う活動	0.64	0.58
10	9 3つの言い方（攻撃的、非主張的、アサーティブ）を体験するアサーション・トレーニングなど、自己の気持ちや考えを表現する活動	0.50	0.60
11	1 家族から自分が生まれたときの様子を聞いたり、家族に手紙を書いたりする活動	0.41	0.59
12	6 動植物やペットなどの死について、話し合ったり考えたりする活動	0.41	0.50
13	18 いじめを未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.41	0.50
14	12 ストレスマネジメントなどのストレスへの適切な対処法を体験的に学ぶ活動	0.36	0.66
15	7 自然災害の被災者や事件・事故の被害者の手記や声などから、人の命や死について考える活動	0.32	0.48
16	3 これまでの出来事や気持ちを見つめ直す「2分の1成人式」や「ライフライン」など、自分の成長を振り返る活動	0.32	0.57
17	8 人や動植物の死をテーマにした絵本・教材などを活用する活動	0.27	0.46
18	17 いじめに関する実態調査等の実施	0.27	0.55
19	2 医師や助産師、妊婦さんなどによる命の誕生に関する講話を聞く活動	0.23	0.43
20	16 暴力行為の現状や未然に防止する方法等に関する授業等の実施	0.23	0.43
21	22 児童生徒のストレスや自尊感情など、心身の健康状態を調べるアンケートの実施	0.23	0.53
22	20 心の病への対応など、メンタルヘルスに関する授業等の実施	0.18	0.39
23	23 スクールカウンセラーやキャンパスカウンセラー等が担任と共同して行う授業や実習等の実施	0.14	0.35
24	14 防災教育で災害後の心のケアについて学ぶ活動	0.14	0.35
25	24 学校外の専門家による「心の教育」に関する児童生徒への講演の実施	0.09	0.29
26	19 自殺に関する現状や未然に防止する方法に関する授業等の実施	0.05	0.21

参考資料 2

不登校・問題行動等と「心の教育」の各活動に関する分散分析の結果

不登校・問題行動に関する回答によって調査対象者を群分けし、これを独立変数とし、「心の教育」の各領域の活動得点（「命の教育」活動得点、「心の健康教育」活動得点、「個別相談体制」活動得点）をそれぞれ従属変数とする 1 要因分散分析を行った。その結果の要約を以下に示す。（以下の記述において、ns は有意差の無かったことを表す。また、多重比較はすべて LSD 法を用い、有意水準は $p < .05$ に設定した。）

1 不登校児童生徒の頻度との関係（表 ）

(1) 「命の教育」活動得点（表 - 1）

不登校生の頻度別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=485)	6.80	2.52
1 かなり少ない (n=263)	5.87	3.18
2 少ない (n=133)	5.11	2.98
3 同程度 (n=189)	5.80	2.74
4 多い (n=62)	5.37	2.75
5 かなり多い (n=30)	5.50	3.55

分散分析： $F(5, 1156)=11.11, p < .01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4	5
0 該当者なし	-	0 > 1	0 > 2	0 > 3	0 > 4	0 > 5
1 かなり少ない		-	1 > 2	ns	ns	ns
2 少ない			-	3 < 4	ns	ns
3 同程度				-	ns	ns
4 多い					-	ns
5 かなり多い						-

(2) 「心の健康教育」活動得点 (表 - 2)

不登校生の頻度別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=485)	5.11	3.20
1 かなり少ない (n=263)	5.53	3.16
2 少ない (n=133)	6.18	3.54
3 同程度 (n=189)	6.14	3.66
4 多い (n=62)	6.23	3.23
5 かなり多い (n=30)	5.84	2.96

分散分析： $F(5, 1164)=4.46, p<.01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4	5
0 該当者なし	-	ns	0 < 2	0 < 3	0 < 4	ns
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	ns	ns
3 同程度				-	ns	ns
4 多い					-	ns
5 かなり多い						-

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

不登校生の頻度別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=485)	4.53	2.59
1 かなり少ない (n=263)	4.94	2.45
2 少ない (n=133)	5.22	2.64
3 同程度 (n=189)	5.83	2.41
4 多い (n=62)	6.21	2.29
5 かなり多い (n=30)	6.00	2.30

分散分析： $F(5, 1164)=4.46, p<.01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4	5
0 該当者なし	-	ns	0 < 2	0 < 3	0 < 4	ns
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	ns	ns
3 同程度				-	ns	ns
4 多い					-	ns
5 かなり多い						-

2 不登校児童生徒の増減との関係（表 ）

人数の関係で、「増加した」「かなり増加した」と回答した者を「増加」群にまとめた。

(1) 「命の教育」活動得点（表 - 1）

不登校生の増減別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=104)	7.12	2.64
2 減少 (n=237)	6.51	2.79
3 不変 (n=644)	5.81	2.90
4 増加 (n=90)	5.81	3.10
5 増減変動 (n=43)	5.81	2.90

分散分析： $F(4, 1117)=6.47, p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	1 > 4	1 > 5
2 減少		-	2 > 3	2 > 4	ns
3 不変			-	ns	ns
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

(2) 「心の健康教育」活動得点 (表 - 2)

不登校生の増減別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=99)	5.63	3.38
2 減少 (n=235)	6.04	3.28
3 不変 (n=654)	5.32	3.35
4 増加 (n=91)	6.10	3.27
5 増減変動 (n=47)	6.06	3.70

分散分析： $F(4, 1125)=2.86, p<.05$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	ns	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	3 < 4	ns
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

不登校生の増減別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=97)	5.30	2.73
2 減少 (n=236)	5.49	2.54
3 不変 (n=658)	4.75	2.51
4 増加 (n=92)	6.00	2.43
5 増減変動 (n=47)	6.04	2.40

分散分析： $F(4, 1125)=9.32, p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	3 < 4	3 < 5
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

3 暴力行為の頻度との関係（表 ）

人数の関係で、「多い」「かなり多い」と回答した者を「多い」群にまとめた。

(1) 「命の教育」活動得点（表 - 1）

暴力行為の頻度別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=559)	6.73	2.62
1 かなり少ない (n=355)	4.67	3.08
2 少ない (n=146)	5.15	2.71
3 同程度 (n=87)	5.02	3.03
4 多い (n=21)	3.81	2.76

分散分析： $F(4, 1164)=35.58, p<.01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4
0 該当者なし	-	0 > 1	0 > 2	0 > 3	0 > 4
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	2 > 4
3 同程度				-	3 > 4
4 多い					-

(2) 「心の健康教育」活動得点（表 - 2）

暴力行為の頻度別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=559)	5.40	3.37
1 かなり少ない (n=355)	5.64	3.06
2 少ない (n=146)	6.01	3.31
3 同程度 (n=87)	6.18	3.45
4 多い (n=21)	6.32	3.22

分散分析： $F(4, 1172)=2.18, ns$

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

暴力行為の頻度別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=559)	4.86	2.60
1 かなり少 (n=355)	5.34	2.60
2 少ない (n=146)	5.54	2.49
3 同程度 (n=87)	5.39	2.39
4 多い (n=21)	5.46	2.14

分散分析: $F(4, 1175)=3.01, p<.01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4
0 該当者なし	-	0 < 1	0 < 2	ns	ns
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	ns
3 同程度				-	ns
4 多い					-

4 暴力行為の増減との関係 (表)

人数の関係で、「増加した」「かなり増加した」と回答した者を「増加」群にまとめた。

(1) 「命の教育」活動得点 (表 - 1)

暴力行為の増減別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=119)	5.98	3.24
2 減少 (n=138)	5.53	2.79
3 不変 (n=780)	6.28	2.84
4 増加 (n=29)	4.93	2.60
5 増減変動 (n=23)	4.61	3.01

分散分析: $F(4, 1088)=4.94, p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	ns	ns	1 > 5
2 減少		-	2 < 3	ns	ns
3 不変			-	3 > 4	3 > 5
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

(2) 「心の健康教育」活動得点 (表 - 2)

暴力行為の増減別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=119)	6.80	3.57
2 減少 (n=138)	6.13	3.20
3 不変 (n=780)	5.34	3.28
4 増加 (n=29)	6.31	4.02
5 増減変動 (n=23)	6.04	3.28

分散分析： $F(4, 1089)=6.34, p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	ns	ns
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

暴力行為の増減別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=119)	5.47	2.52
2 減少 (n=138)	5.72	2.51
3 不変 (n=780)	4.95	2.57
4 増加 (n=29)	5.21	2.37
5 増減変動 (n=23)	6.04	2.08

分散分析： $F(4, 1094)=4.23, p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	ns	3 < 5
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

5 いじめの頻度との関係（表 ）

人数の関係で、「多い」「かなり多い」と回答した者を「多い」群にまとめた。

(1) 「命の教育」活動得点（表 - 1）

いじめの頻度別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=559)	6.36	2.85
1 かなり少ない(n=355)	6.15	2.90
2 少ない(n=146)	5.92	2.73
3 同程度(n=87)	4.98	3.00
4 多い(n=21)	3.67	2.50

分散分析：F(4, 1163)=8.44, $p < .01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4
0 該当者なし	-	ns	ns	0 > 3	0 > 4
1 かなり少ない		-	ns	1 > 3	1 > 4
2 少ない			-	2 > 3	2 > 4
3 同程度				-	ns
4 多い					-

(2) 「心の健康教育」活動得点（表 - 2）

いじめの頻度別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=557)	5.17	3.25
1 かなり少ない(n=359)	5.81	3.52
2 少ない(n=146)	5.98	2.94
3 同程度(n=91)	6.15	3.48
4 多い(n=21)	6.71	3.47

分散分析：F(4, 1169)=4.39, $p < .01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4
0 該当者なし	-	0 < 1	0 < 1	0 < 3	0 < 4
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	ns
3 同程度				-	ns
4 多い					-

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

いじめの頻度別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
0 該当者なし (n=561)	4.72	2.64
1 かなり少ない (n=355)	5.26	2.55
2 少ない (n=148)	5.16	2.37
3 同程度 (n=94)	5.49	2.34
4 多い (n=21)	6.38	2.22

分散分析： $F(4, 1174)=5.08, p<.01$ 多重比較結果

	0	1	2	3	4
0 該当者なし	-	0 < 1	ns	0 < 3	0 < 4
1 かなり少ない		-	ns	ns	ns
2 少ない			-	ns	2 < 4
3 同程度				-	ns
4 多い					-

6 いじめの増減との関係 (表)

人数の関係で「増加した」「かなり増加した」と回答した者を「増加」群にまとめた。

(1) 「命の教育」活動得点 (表 - 1)

いじめの増減別「命の教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=104)	6.60	2.86
2 減少 (n=162)	5.83	2.88
3 不変 (n=779)	6.08	2.91
4 増加 (n=23)	5.96	3.05
5 増減変動 (n=18)	4.94	2.41

分散分析： $F(4, 1081)=1.83, ns$

(2) 「心の健康教育」活動得点 (表 - 2)

暴力行為の増減別「心の健康教育」活動得点の平均値と標準偏差

不登校増減	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=104)	6.64	3.84
2 減少 (n=156)	6.07	3.14
3 不変 (n=788)	5.31	3.27
4 増加 (n=24)	6.92	3.76
5 増減変動 (n=20)	5.75	4.04

分散分析： $F(4,1087)=5.74$, $p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	3 < 4	ns
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

(3) 「個別相談体制」活動得点 (表 - 3)

いじめの増減別「個別相談体制」活動得点の平均値と標準偏差

不登校頻度	平均値	標準偏差
1 かなり減少 (n=102)	5.52	2.76
2 減少 (n=160)	5.74	2.72
3 不変 (n=790)	4.90	2.47
4 増加 (n=24)	5.17	2.32
5 増減変動 (n=20)	5.05	2.14

分散分析： $F(4,1091)=4.54$, $p<.01$ 多重比較結果

	1	2	3	4	5
1 かなり減少	-	ns	1 > 3	ns	ns
2 減少		-	2 > 3	ns	ns
3 不変			-	ns	ns
4 増加				-	ns
5 増減変動					-

「心の教育」に関する調査報告書

発 行 平成23年 3 月

編集発行 兵庫県立教育研修所

心の教育総合センター

〒673-1421 兵庫県加東市山国2006-107

電話(0795)42-3100(代)

印 刷 所 株式会社吉本宝文堂

22教

T

1 - 055A4